

室蘭工業大学
平成 17 年～24 年 卒業生アンケート

集計結果報告書
平成 28 年 3 月

目 次

1. 調査の概要	4
2. 調査結果の要約	7
3. 調査集計結果	10
問5. 卒業生の北海道在住割合	10
問6. 大学時代のサークル活動への参加状況	10
問7. 大学生活の充実度	11
問8. 大学時代に学んだことや経験の現在の生活における貢献度	12
問9. 在学中に身につけておくべき知識、スキル	13
問10. 自分の子供、身内に室蘭工業大学への進学を勧める意思の有無	14
問11. 12. 室蘭工業大学進学を勧める理由・勧めない理由	15
問13. これからの室蘭工業大学の教育に望む事項	17
問14. 室蘭工業大学出身で「良かった」「良くなかった」と思うこと	18
問15. 卒業後のキャンパス訪問状況	18
問16. 卒業後にキャンパスを訪問した目的	19
問17. 同窓との継続的なネットワークの有無とその状況	19
問18. 大学及び同窓会、記念事業等に対する寄付や献金の有無と今後の意向	20
問19. 大学の情報に触れる媒体	20
問20. ここ2～3年で目にした大学に関するニュース・話題(自由記述)	21
問21. 現在の勤務先の業種と会社内での職種、役職	22
問22-1. 就職の形式(大学推薦か自由応募か)	23
問22-2. 就職時の大学サポートの満足度	24
問22-3. 卒業時の就職先に関する満足度	25
問23. 就職時に必要だったと思うサポートの内容	26
問24. 勤務先での室蘭工業大学及び卒業生の評価	27
問25. 転職の経験の有無と回数	28
問26. 転職の主な理由	28
問27. 新たな就職先を探した手段	29
問28. 本学が転職支援サービスを提供する場合に求めるサービス内容	30
問29. 卒業生として室蘭工業大学に期待すること、意見・要望など	31
<参考>問14. 室蘭工業大学出身で良かったと思う点、良くなかったと思う点(全文)	35

1. 調査の概要

①実施時期：平成 27 年 8 月～9 月

②対象：室蘭工業大学 平成 17 年～24 年の卒業生 2,676 名

③回答・回収状況：262 票 (回収率：9.8%)

④回答者内訳：回答者の内訳は下図表のとおり。なお、回収数を鑑み卒業生を平成 17～20 年と平成 21～24 年卒業生に区分し、必要に応じたクロス分析を行なった。

問 1. 卒業(修了)した学科・専攻はどこですか(学部卒業、大学院前期(修士)修了の場合は両方)

	回答者数	合計	1. 学部：建設システム工学科	2. 学部：機械システム工学科	3. 学部：機械システム工学科(夜)	4. 学部：情報工学科	5. 学部：情報工学科(夜)	6. 学部：電気電子工学科	7. 学部：電気電子工学科(夜)	8. 学部：材料物性工学科	9. 学部：応用化学学科	
全 体	262 (100.0)	371 (141.6)	46 (17.6)	47 (17.9)	5 (1.9)	34 (13.0)	2 (0.8)	32 (12.2)	4 (1.5)	34 (13.0)	43 (16.4)	
卒業年	1. 平成17年～平成20年	91 (100.0)	118 (129.7)	15 (16.5)	16 (17.6)	2 (2.2)	14 (15.4)	0 (-)	11 (12.1)	0 (-)	11 (12.1)	16 (17.6)
	2. 平成21年～平成24年	167 (100.0)	248 (148.5)	31 (18.6)	29 (17.4)	3 (1.8)	20 (12.0)	2 (1.2)	20 (12.0)	4 (2.4)	23 (13.8)	26 (15.6)
	3. 無回答	4 (100.0)	5 (125.0)	0 (-)	2 (50.0)	0 (-)	0 (-)	0 (-)	1 (25.0)	0 (-)	0 (-)	1 (25.0)
卒業学科・専攻	1. 昼間	129 (100.0)	129 (100.0)	26 (20.2)	23 (17.8)	0 (-)	21 (16.3)	0 (-)	15 (11.6)	0 (-)	21 (16.3)	23 (17.8)
	2. 夜間	12 (100.0)	14 (116.7)	0 (-)	0 (-)	5 (41.7)	0 (-)	2 (16.7)	0 (-)	4 (33.3)	0 (-)	0 (-)
	3. 大学院	107 (100.0)	214 (200.0)	20 (18.7)	24 (22.4)	0 (-)	13 (12.1)	0 (-)	17 (15.9)	0 (-)	13 (12.1)	20 (18.7)
	4. 無回答	14 (100.0)	14 (100.0)	0 (-)	0 (-)	0 (-)	0 (-)	0 (-)	0 (-)	0 (-)	0 (-)	0 (-)

	10. 学部：建築社会基盤系学科	11. 学部：機械航空創造系学科	12. 学部：機械航空創造系学科(夜)	13. 学部：情報電子工学系学科	14. 学部：情報電子工学系学科(夜)	15. 学部：応用理化学系学科	16. 大学院前期：建設システム工学専攻	17. 大学院前期：機械システム工学専攻	18. 大学院前期：情報工学専攻	19. 大学院前期：電気電子工学専攻	20. 大学院前期：材料物性工学専攻
全 体	0 (-)	0 (-)	0 (-)	0 (-)	1 (0.4)	0 (-)	9 (3.4)	11 (4.2)	7 (2.7)	7 (2.7)	6 (2.3)
卒業年	1. 平成17年～平成20年	0 (-)	0 (-)	0 (-)	0 (-)	0 (-)	4 (4.4)	6 (6.6)	3 (3.3)	5 (5.5)	2 (2.2)
	2. 平成21年～平成24年	0 (-)	0 (-)	0 (-)	0 (-)	1 (0.6)	5 (3.0)	5 (3.0)	4 (2.4)	2 (1.2)	4 (2.4)
	3. 無回答	0 (-)	0 (-)	0 (-)	0 (-)	0 (-)	0 (-)	0 (-)	0 (-)	0 (-)	0 (-)
卒業学科・専攻	1. 昼間	0 (-)	0 (-)	0 (-)	0 (-)	0 (-)	0 (-)	0 (-)	0 (-)	0 (-)	0 (-)
	2. 夜間	0 (-)	0 (-)	0 (-)	0 (-)	1 (8.3)	0 (-)	0 (-)	0 (-)	0 (-)	0 (-)
	3. 大学院	0 (-)	0 (-)	0 (-)	0 (-)	0 (-)	9 (8.4)	11 (10.3)	7 (6.5)	7 (6.5)	6 (5.6)
	4. 無回答	0 (-)	0 (-)	0 (-)	0 (-)	0 (-)	0 (-)	0 (-)	0 (-)	0 (-)	0 (-)

	21. 大学院前期：応用化学専攻	22. 大学院前期：建築社会基盤系専攻	23. 大学院前期：機械創造工学系専攻	24. 大学院前期：応用理化学系専攻	25. 大学院前期：情報電子工学系専攻	26. 大学院前期：航空宇宙システム工学専攻	27. 大学院前期：公共システム工学専攻	28. 大学院前期：数理システム工学専攻	29. 無回答
全 体	7 (2.7)	9 (3.4)	16 (6.1)	13 (5.0)	18 (6.9)	4 (1.5)	2 (0.8)	0 (-)	14 (5.3)
卒業年	1. 平成17年～平成20年	7 (7.7)	0 (-)	0 (-)	0 (-)	0 (-)	0 (-)	0 (-)	6 (6.6)
	2. 平成21年～平成24年	0 (-)	9 (5.4)	15 (9.0)	13 (7.8)	18 (10.8)	4 (2.4)	2 (1.2)	8 (4.8)
	3. 無回答	0 (-)	0 (-)	1 (25.0)	0 (-)	0 (-)	0 (-)	0 (-)	0 (-)
卒業学科・専攻	1. 昼間	0 (-)	0 (-)	0 (-)	0 (-)	0 (-)	0 (-)	0 (-)	0 (-)
	2. 夜間	0 (-)	0 (-)	0 (-)	0 (-)	2 (16.7)	0 (-)	0 (-)	0 (-)
	3. 大学院	7 (6.5)	9 (8.4)	16 (15.0)	13 (12.1)	16 (15.0)	4 (3.7)	2 (1.9)	0 (-)
	4. 無回答	0 (-)	0 (-)	0 (-)	0 (-)	0 (-)	0 (-)	0 (-)	14 (100.0)

注：()内は#プロ#数を100とした割合

問2. いつ大学・大学院(修士)を卒業・修了しましたか(学部卒業、大学院前期(修士)修了の場合は両方)

		回答者数	合 計	1. 平成17年	2. 平成18年	3. 平成19年	4. 平成20年	5. 平成21年	6. 平成22年	7. 平成23年	8. 平成24年	9. 無回答
全 体		262 (100.0)	328 (125.2)	16 (6.1)	28 (10.7)	36 (13.7)	42 (16.0)	45 (17.2)	51 (19.5)	43 (16.4)	63 (24.0)	4 (1.5)
卒業年	1. 平成17年～平成20年	91 (100.0)	108 (118.7)	15 (16.5)	28 (30.8)	29 (31.9)	36 (39.6)	0 (-)	0 (-)	0 (-)	0 (-)	0 (-)
	2. 平成21年～平成24年	167 (100.0)	216 (129.3)	1 (0.6)	0 (-)	7 (4.2)	6 (3.6)	45 (26.9)	51 (30.5)	43 (25.7)	63 (37.7)	0 (-)
	3. 無回答	4 (100.0)	4 (100.0)	0 (-)	0 (-)	0 (-)	0 (-)	0 (-)	0 (-)	0 (-)	0 (-)	4 (100.0)
卒業学科・専攻	1. 昼間	129 (100.0)	130 (100.8)	7 (5.4)	14 (10.9)	20 (15.5)	16 (12.4)	14 (10.9)	17 (13.2)	19 (14.7)	20 (15.5)	3 (2.3)
	2. 夜間	12 (100.0)	13 (108.3)	0 (-)	0 (-)	2 (16.7)	0 (-)	4 (33.3)	3 (25.0)	2 (16.7)	2 (16.7)	0 (-)
	3. 大学院	107 (100.0)	169 (157.9)	7 (6.5)	12 (11.2)	14 (13.1)	24 (22.4)	21 (19.6)	30 (28.0)	20 (18.7)	40 (37.4)	1 (0.9)
	4. 無回答	14 (100.0)	16 (114.3)	2 (14.3)	2 (14.3)	0 (-)	2 (14.3)	6 (42.9)	1 (7.1)	2 (14.3)	1 (7.1)	0 (-)

注: ()内はサブ #数を100とした割合

問3. 年齢(平成27年8月1日現在)

		合 計	1. 25歳	2. 26歳	3. 27歳	4. 28歳	5. 29歳	6. 30歳	7. 31歳	8. 32歳	9. 33歳以上	10. 無回答
全 体		262 (100.0)	23 (8.8)	37 (14.1)	27 (10.3)	40 (15.3)	35 (13.4)	24 (9.2)	32 (12.2)	25 (9.5)	19 (7.3)	0 (-)
卒業年	1. 平成17年～平成20年	91 (100.0)	0 (-)	0 (-)	0 (-)	3 (3.3)	9 (9.9)	12 (13.2)	28 (30.8)	23 (25.3)	16 (17.6)	0 (-)
	2. 平成21年～平成24年	167 (100.0)	23 (13.8)	36 (21.6)	27 (16.2)	37 (22.2)	25 (15.0)	12 (7.2)	3 (1.8)	2 (1.2)	2 (1.2)	0 (-)
	3. 無回答	4 (100.0)	0 (-)	1 (25.0)	0 (-)	0 (-)	1 (25.0)	0 (-)	1 (25.0)	0 (-)	1 (25.0)	0 (-)
卒業学科・専攻	1. 昼間	129 (100.0)	12 (9.3)	16 (12.4)	12 (9.3)	17 (13.2)	18 (14.0)	15 (11.6)	19 (14.7)	9 (7.0)	11 (8.5)	0 (-)
	2. 夜間	12 (100.0)	2 (16.7)	2 (16.7)	0 (-)	5 (41.7)	1 (8.3)	0 (-)	2 (16.7)	0 (-)	0 (-)	0 (-)
	3. 大学院	107 (100.0)	8 (7.5)	18 (16.8)	15 (14.0)	15 (14.0)	13 (12.1)	7 (6.5)	11 (10.3)	12 (11.2)	8 (7.5)	0 (-)
	4. 無回答	14 (100.0)	1 (7.1)	1 (7.1)	0 (-)	3 (21.4)	3 (21.4)	2 (14.3)	0 (-)	4 (28.6)	0 (-)	0 (-)

注: ()内はサブ #数を100とした割合

問4. 性別

		合 計	1. 男性	2. 女性	3. 無回答
全 体		262 (100.0)	224 (85.5)	38 (14.5)	0 (-)
卒業年	1. 平成17年～平成20年	91 (100.0)	76 (83.5)	15 (16.5)	0 (-)
	2. 平成21年～平成24年	167 (100.0)	144 (86.2)	23 (13.8)	0 (-)
	3. 無回答	4 (100.0)	4 (100.0)	0 (-)	0 (-)
卒業学科・専攻	1. 昼間	129 (100.0)	101 (78.3)	28 (21.7)	0 (-)
	2. 夜間	12 (100.0)	12 (100.0)	0 (-)	0 (-)
	3. 大学院	107 (100.0)	98 (91.6)	9 (8.4)	0 (-)
	4. 無回答	14 (100.0)	13 (92.9)	1 (7.1)	0 (-)

注: ()内はサブ #数を100とした割合

問5. 現在お住まいの場所の都道府県名、外国の場合は国名

	合計	1. 北海道	2. 青森県	3. 岩手県	4. 宮城県	5. 秋田県	6. 山形県	7. 福島県	8. 茨城県	9. 栃木県	10. 群馬県	11. 埼玉県	12. 千葉県
全体	262 (100.0)	110 (42.0)	5 (1.9)	5 (1.9)	4 (1.5)	1 (0.4)	4 (1.5)	1 (0.4)	5 (1.9)	6 (2.3)	2 (0.8)	9 (3.4)	5 (1.9)
卒業年	1. 平成17年～平成20年	91 (100.0)	37 (40.7)	3 (3.3)	- (-)	- (-)	2 (2.2)	- (-)	- (-)	4 (4.4)	- (-)	4 (4.4)	2 (2.2)
	2. 平成21年～平成24年	167 (100.0)	72 (43.1)	2 (1.2)	5 (3.0)	4 (2.4)	1 (0.6)	2 (1.2)	1 (0.6)	5 (3.0)	2 (1.2)	5 (3.0)	3 (1.8)
	3. 無回答	4 (100.0)	1 (25.0)	0 (-)	0 (-)	0 (-)	0 (-)	0 (-)	0 (-)	0 (-)	0 (-)	0 (-)	0 (-)
卒業学科・専攻	1. 昼間	129 (100.0)	62 (48.1)	3 (2.3)	1 (0.8)	2 (1.6)	1 (0.8)	2 (1.6)	0 (0.8)	1 (1.6)	1 (0.8)	6 (4.7)	2 (1.6)
	2. 夜間	12 (100.0)	3 (25.0)	0 (-)	2 (16.7)	0 (-)	0 (-)	0 (-)	0 (-)	0 (-)	0 (-)	2 (16.7)	0 (-)
	3. 大学院	107 (100.0)	39 (36.4)	2 (1.9)	1 (0.9)	2 (1.9)	0 (-)	2 (1.9)	1 (0.9)	3 (2.8)	3 (2.8)	1 (0.9)	2 (1.9)
	4. 無回答	14 (100.0)	6 (42.9)	0 (-)	1 (7.1)	0 (-)	0 (-)	0 (-)	0 (-)	1 (7.1)	1 (7.1)	0 (-)	1 (7.1)

	13. 東京都	14. 神奈川県	15. 新潟県	16. 富山県	17. 石川県	18. 福井県	19. 山梨県	20. 長野県	21. 岐阜県	22. 静岡県	23. 愛知県	24. 三重県	25. 滋賀県
全体	23 (8.8)	24 (9.2)	1 (0.4)	2 (0.8)	0 (-)	0 (-)	0 (-)	3 (1.1)	6 (2.3)	6 (2.3)	16 (6.1)	3 (1.1)	4 (1.5)
卒業年	1. 平成17年～平成20年	11 (12.1)	7 (7.7)	0 (-)	0 (-)	0 (-)	0 (-)	2 (2.2)	3 (3.3)	3 (3.3)	5 (5.5)	1 (1.1)	1 (1.1)
	2. 平成21年～平成24年	11 (6.6)	17 (10.2)	1 (0.6)	2 (1.2)	0 (-)	0 (-)	1 (0.6)	3 (1.8)	3 (1.8)	11 (6.6)	2 (1.2)	3 (1.8)
	3. 無回答	1 (25.0)	0 (-)	0 (-)	0 (-)	0 (-)	0 (-)	0 (-)	0 (-)	0 (-)	0 (-)	0 (-)	0 (-)
卒業学科・専攻	1. 昼間	10 (7.8)	10 (7.8)	0 (-)	1 (0.8)	0 (-)	0 (-)	0 (-)	3 (2.3)	1 (0.8)	13 (10.1)	1 (0.8)	2 (1.6)
	2. 夜間	1 (8.3)	1 (8.3)	0 (-)	0 (-)	0 (-)	0 (-)	1 (8.3)	0 (-)	1 (8.3)	0 (-)	0 (-)	1 (8.3)
	3. 大学院	11 (10.3)	13 (12.1)	1 (0.9)	1 (0.9)	0 (-)	0 (-)	0 (-)	2 (1.9)	3 (2.8)	4 (3.7)	3 (2.8)	1 (0.9)
	4. 無回答	1 (7.1)	0 (-)	0 (-)	0 (-)	0 (-)	0 (-)	0 (-)	0 (-)	0 (-)	0 (-)	0 (-)	0 (-)

	26. 京都府	27. 大阪府	28. 兵庫県	29. 奈良県	30. 和歌山県	31. 鳥取県	32. 島根県	33. 岡山県	34. 広島県	35. 山口県	36. 徳島県	37. 香川県	38. 愛媛県
全体	1 (0.4)	1 (0.4)	8 (3.1)	0 (-)	0 (-)	0 (-)	0 (-)	0 (-)	1 (0.4)	1 (0.4)	0 (-)	0 (-)	2 (0.8)
卒業年	1. 平成17年～平成20年	1 (1.1)	0 (-)	4 (4.4)	0 (-)	0 (-)	0 (-)	0 (-)	0 (-)	0 (-)	0 (-)	0 (-)	0 (-)
	2. 平成21年～平成24年	0 (-)	1 (0.6)	2 (1.2)	0 (-)	0 (-)	0 (-)	0 (-)	1 (0.6)	1 (0.6)	0 (-)	0 (-)	2 (1.2)
	3. 無回答	0 (-)	0 (-)	2 (50.0)	0 (-)	0 (-)	0 (-)	0 (-)	0 (-)	0 (-)	0 (-)	0 (-)	0 (-)
卒業学科・専攻	1. 昼間	1 (0.8)	0 (-)	3 (2.3)	0 (-)	0 (-)	0 (-)	0 (-)	0 (-)	0 (-)	0 (-)	0 (-)	0 (-)
	2. 夜間	0 (-)	0 (-)	0 (-)	0 (-)	0 (-)	0 (-)	0 (-)	0 (-)	0 (-)	0 (-)	0 (-)	0 (-)
	3. 大学院	0 (-)	0 (-)	5 (4.7)	0 (-)	0 (-)	0 (-)	0 (-)	0 (-)	0 (-)	0 (-)	0 (-)	2 (1.9)
	4. 無回答	0 (-)	1 (7.1)	0 (-)	0 (-)	0 (-)	0 (-)	0 (-)	1 (7.1)	1 (7.1)	0 (-)	0 (-)	0 (-)

	39. 高知県	40. 福岡県	41. 佐賀県	42. 長崎県	43. 熊本県	44. 大分県	45. 宮崎県	46. 鹿児島県	47. 沖縄県	48. 外国	49. 無回答
全体	1 (0.4)	1 (0.4)	0 (-)	1 (0.4)	0 (-)	0 (-)	0 (-)	0 (-)	0 (-)	0 (-)	0 (-)
卒業年	1. 平成17年～平成20年	1 (1.1)	0 (-)	0 (-)	0 (-)	0 (-)	0 (-)	0 (-)	0 (-)	0 (-)	0 (-)
	2. 平成21年～平成24年	0 (-)	1 (0.6)	0 (-)	1 (0.6)	0 (-)	0 (-)	0 (-)	0 (-)	0 (-)	0 (-)
	3. 無回答	0 (-)	0 (-)	0 (-)	0 (-)	0 (-)	0 (-)	0 (-)	0 (-)	0 (-)	0 (-)
卒業学科・専攻	1. 昼間	1 (0.8)	0 (-)	0 (-)	0 (-)	0 (-)	0 (-)	0 (-)	0 (-)	0 (-)	0 (-)
	2. 夜間	0 (-)	0 (-)	0 (-)	0 (-)	0 (-)	0 (-)	0 (-)	0 (-)	0 (-)	0 (-)
	3. 大学院	0 (-)	1 (0.9)	0 (-)	1 (0.9)	0 (-)	0 (-)	0 (-)	0 (-)	0 (-)	0 (-)
	4. 無回答	0 (-)	0 (-)	0 (-)	0 (-)	0 (-)	0 (-)	0 (-)	0 (-)	0 (-)	0 (-)

注：()内はサンプル数を100とした割合

2. 調査結果の要約

- 平成 27 年度調査回答卒業生（以下：「卒業生」と記す）の北海道在籍割合は 42.0%となっている。なお、卒業生で北海道以外の在住者が 5%を超えるのは、東京都 8.8%、神奈川県 9.2%、愛知県 6.1%となっている。（問 5）
- 卒業生の学生時代は 62.6%がクラブやサークルに所属していて、振り返ってみると 80.6%が学生時代の生活は全体として「非常に充実していた」または「充実していた」と回答している。（問 6、7）
- 大学時代に学んだことや経験の現在の生活における貢献度で、「非常に役立っている」「役立っている」を合せて、最も高いのは「アルバイト」66.1%、次いで「専門科目」64.9%、「海外留学」59.2%となっている。（問 8）
- 卒業生が在学中に身につけておくべきだったと考えている知識、スキルに関しては、全体で「語学力」が 43.1%でトップ。次いで「専門的知識」40.1%、「プレゼンテーション」と「各種資格の取得」ともに 27.9%となっている。（問 9）
- 自分の子供、身内に本学への進学を勧めたいと思っている卒業生の割合は全体で 57.6%。（問 10）
- 今回調査において本学進学を勧める理由としては「国立大学である」が 79.5%でトップ。その他「就職に有利」43.7%、「自分の母校だから」32.5%と続いている。逆に、進学を勧めない理由としては、「本人が決めることだから」77.3%が最も多い。次いで「自宅から通えない」15.5%となっている。（問 11、12）
- 卒業生が望む本学の教育内容・方向性については、「技術者、研究者としての誇りや意欲を高め社会へ貢献できる人間を目指した教育」46.2%、次いで「専門実務的な能力が身につくようなカリキュラム」42.4%、「コミュニケーション能力やプレゼンテーション能力のような一般的な能力を養うカリキュラム」40.5%となっている。（問 13）
- 卒業生が本学出身で「良かったと思う点」で記載の多さが目立つのは、「入社した会社に先輩がいて心強かった」「友人に恵まれた。深い交友関係を築けた」、「学習・研究に集中でき、業務に活かすことができた」、「就職に有利」、「国立大学である」等である。
逆に良くなかった点としては、「（北海道以外では）知名度が低い」、「他校（ほかの大学・専門学校）や企業との接点が少なかった」、「語学を身につける授業が充実していない」、「交通が不便、周囲になにもない」等が挙げられている。巻末に全文を掲載した。（問 14）

- 卒業後に1回以上キャンパスを訪れたことのある卒業生は、全体で74.4%。卒業後にキャンパスを訪問した目的としては、「ゼミの先生や仲間と会いに」が40.1%で最も多い。次いで「後輩のクラブ活動の指導で」11.8%、「大学祭・同窓会などで」9.5%の順になっている。(問15、16)
- 同窓との継続的なつながりを持っている卒業生は全体の76.3%。具体的なつながりとしては、「先輩・同期・後輩とのプライベートな繋がりがある」が66.0%で最も多い。次いで「クラブ・サークル・ゼミの集まりに参加している」18.7%となっている。(問17)
- 本学に寄付や献金をしたことがある卒業生は、全体の11.5%。「したことはないがしたい意思はある」者も全体の1割強程度存在する。(問18)
- 本学の情報に触れる主な媒体としては、「室蘭工業大学のホームページ」が60.3%と最も多い。これまでの調査と比較しても大きな変化は見られない。(問19)
- ここ2～3年で目にした大学に関するニュース・話題としては、自由記述で「研究室の爆発事故等」「女子寮の完成」「ジンギスカン鍋」「ものづくり基盤センターの活動」「学科・専攻の再編成」ほか多くが挙げられている。(問20)
- 卒業生の勤務先の業種としては、「製造業」34.4%がトップ。次いで「建設業」13.7%、「公務」11.8%、「情報通信業」10.7%となっている。社内での職種としては、「専門的・技術的職業従事者」が66.8%と圧倒的に多い。(問21)
- 卒業生が就職した際の形式は、「大学推薦」が全体の43.9%。就職時の大学側のサポートについて、「充分であった」「普通」の合計は全体で77.8%となっている。過去と比較して満足度の向上も認識される。(問22-1、問22-2)
- 卒業時の就職先についての満足度については、「大変満足だった」「概ね満足だった」を合わせて80.6%。平成17～20年卒業生と平成21～24年卒業生の比較で見ると、平成17～20年卒業生の方が若干満足度が高くなっている。(問22-3)
- 就職時の大学側のサポートが「もの足りなかった」と回答した卒業生が考えるサポートの種類や項目は、「もっと多くの企業、団体等の紹介、情報提供をしてほしかった」が46.9%で最も多い。(問23)

- 勤務先における本学と卒業生に対する評価について、「非常に高い評価を受けていると感じる」「やや高い評価を受けていると感じる」を合わせた肯定回答の割合は、全体で 39.7%。これまでの調査と比較して大きな変化は把握できない。(問 24)
- 転職経験のある卒業生の割合は、18.7 %。平成 17～20 年卒業生で 29.7%、平成 21～24 年卒業生では 12.6%となっている。(問 25)
- 転職の主な理由として最も多いのは「人間関係が嫌になった」32.7%、次いで「自分の可能性を追求してみたかった」26.5%となっている。(問 26)
- 新たな就職先を探す手段としては、1 回目は「ハローワークで紹介してもらった」が 18.4%で最も多く、次いで「民間の職業紹介所に登録し、紹介を受けた」「新聞、転職情報誌などの求人情報」ともに 16.3%となっている。(問 27)
- 本学が卒業生に対して転職支援サービスを提供するとした場合に求めるサービス内容としては、「求人情報」が 62.2%で最も多く、「資格試験、公務員講座を開設し、卒業生にも開放してほしい」36.3%、「室蘭工業大学で行われる就職ガイダンス(面接試験の受け方などを含む)、企業セミナー等を、卒業生にも開放してほしい」24.4%の順になっている。(問 28)
- 卒業生として室蘭工業大学に期待すること、意見・要望などについては回答者 262 名の内 70 名から具体的な記述があった。大まかな分類の上、巻末に掲載した。(問 29)

以上

3. 調査集計結果

問5. 卒業生の北海道在住割合

平成27年度調査回答卒業生(以下:「卒業生」と記す)の北海道在住割合は42.0%となっている。

なお、卒業生で北海道以外の在住者が5%を超えるのは、下図表のとおり東京都8.8%、神奈川県9.2%、愛知県6.1%となっている。

問5. 現在お住まいの場所の都道府県名、外国の場合は国名

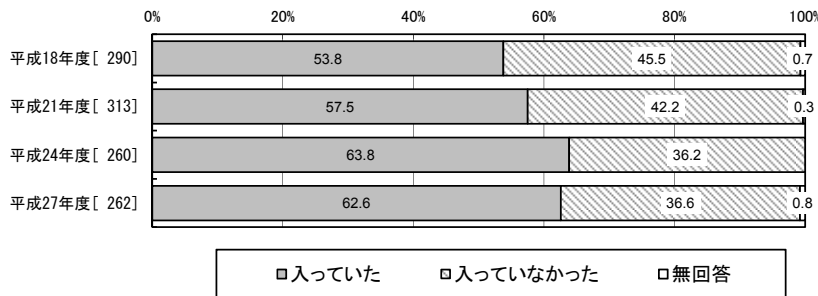
	北海道	東京都	神奈川県	愛知県	茨城県	埼玉県	千葉県	栃木県	兵庫県
平成18年度[290]	50.3	7.6	7.6	4.1	3.1	4.5	1.0	2.8	0.7
平成21年度[313]	45.4	8.3	8.6	3.2	5.4	2.6	4.5	3.8	1.9
平成24年度[260]	40.8	10.0	7.7	5.0	2.7	2.3	4.2	2.3	2.7
平成27年度[262]	42.0	8.8	9.2	6.1	1.9	3.4	1.9	2.3	3.1

問6. 大学時代のサークル活動への参加状況

今回(平成27年度)の調査回答卒業生で在学中サークル活動等へ参加していた割合は62.6%。【参考】で掲載した在学生の学内のクラブ・サークル活動への参加割合に概ね準じているといえる。

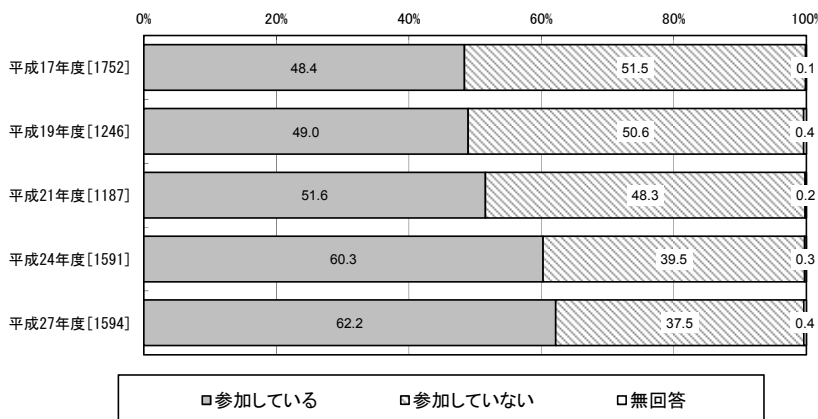
<これまでの調査との比較>

問6. 大学時代になかクラブ・サークルや団体に入っていましたか<0311>



【参考】在学生の学内のクラブ・サークル活動への参加割合

問3. あなたは学内のクラブ・サークル活動に参加していますか<0311>

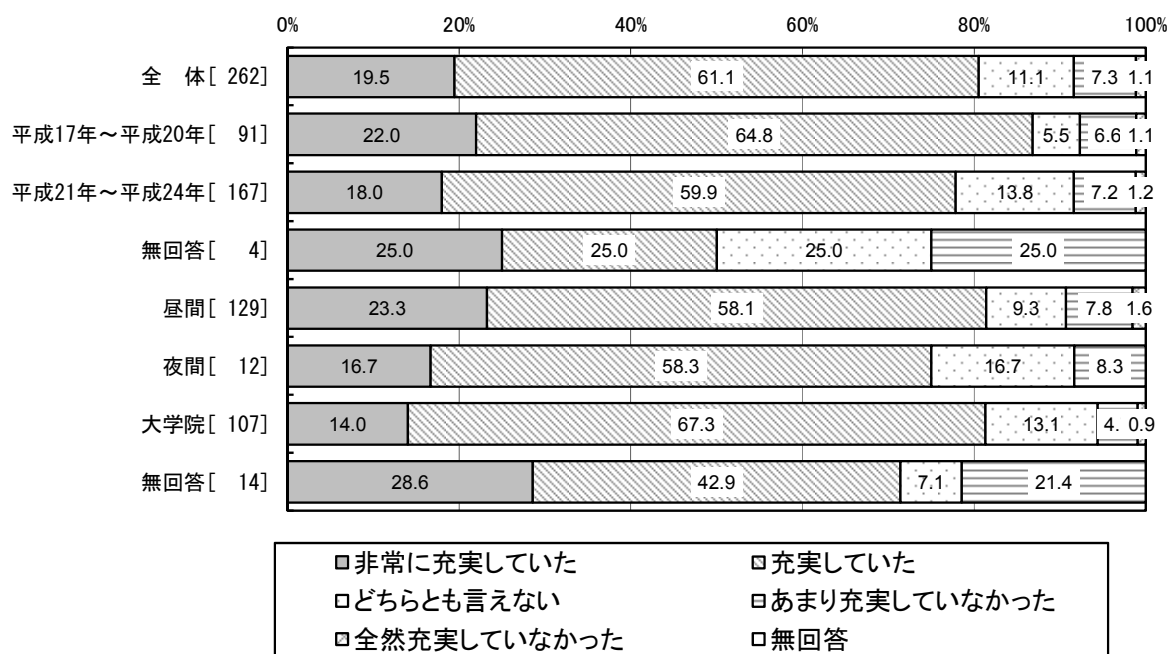


問7. 大学生生活の充実度

卒業生の在学中における大学生生活の充実度について、「非常に充実していた」「充実していた」を合わせた肯定回答の割合は全体で 80.6%。卒業年別で見ると平成 17 年～平成 20 年の卒業生の方が高い割合となっている。

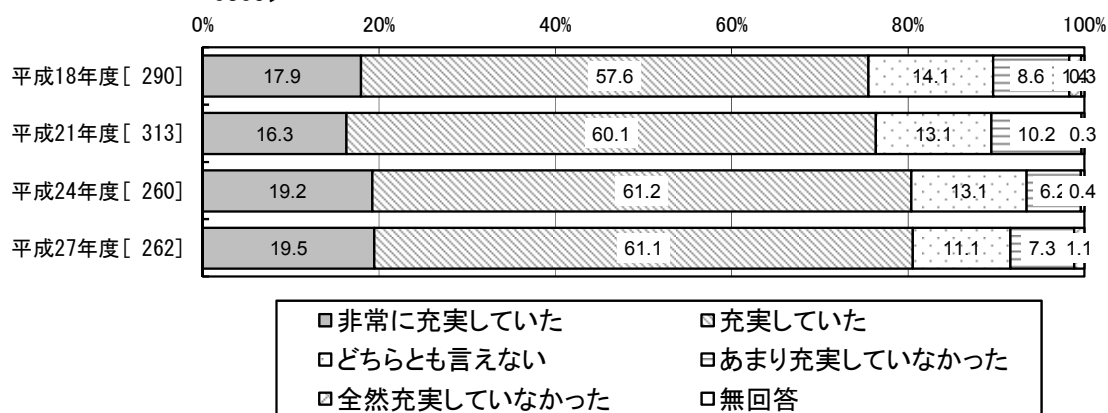
<これまでの調査との比較>で見ると、「非常に充実していた」「充実していた」を合わせた肯定回答の割合は、前回調査(平成 24 年度)とほぼ同等の数値となっている。

問7. あなたの大学時代の生活は、全体としてどの程度充実していましたか<0305>



<これまでの調査との比較>

問7. あなたの大学時代の生活は、全体としてどの程度充実していましたか<0305>



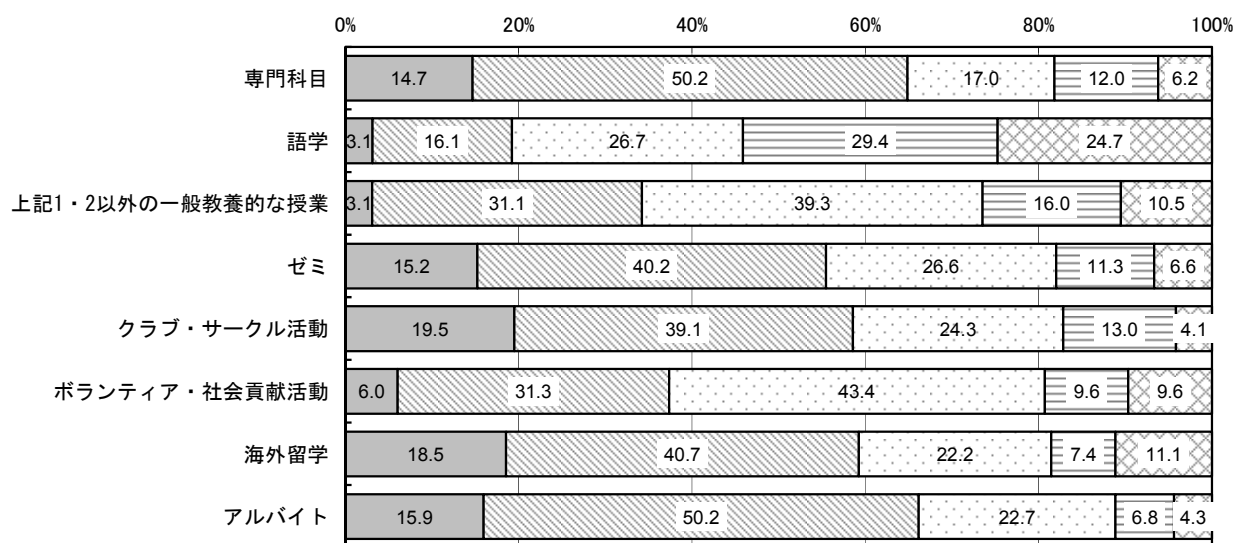
問8. 大学時代に学んだことや経験の現在の生活における貢献度

大学時代に学んだことや経験の現在の生活における貢献度についての設問である。項目によって「該当しない」割合も多いので、「該当しない」「無回答」を除いて集計した結果である。

「非常に役立っている」「役立っている」の肯定回答の割合は、「アルバイト」が66.1%でトップ。次いで「専門科目」64.9%、「海外留学」59.2%となっている。

しかし、下図表の＜全回答結果＞からみると、ほぼ全ての回答者が該当する「専門科目」について「非常に役立っている」「役立っている」は64.1%、「ゼミ」については54.2%となっており、卒業生全体としてみればその貢献度が高いことが把握できる。

問8. 大学時代に学んだことや経験は、現在どの程度役立っていると思いますか



非常に役立っている 役立っている どちらとも言えない
あまり役立っていない 全く役立っていない

＜全回答結果＞

問8. 大学時代に学んだことや経験は、現在どの程度役立っていると思いますか

	非常に役立っている	役立っている	どちらとも言えない	あまり役立っていない	全く役立っていない	該当しない	無回答	肯定的意見
1. 専門科目	14.5	49.6	16.8	11.8	6.1	0.8	0.4	64.1
2. 語学	3.1	15.6	26.0	28.6	24.0	2.3	0.4	18.7
3. 上記1・2以外の一般教養的な授業	3.1	30.5	38.5	15.6	10.3	1.1	0.8	33.6
4. ゼミ	14.9	39.3	26.0	11.1	6.5	1.9	0.4	54.2
5. クラブ・サークル活動	12.6	25.2	15.6	8.4	2.7	34.7	0.8	37.8
6. ボランティア・社会貢献活動	1.9	9.9	13.7	3.1	3.1	67.2	1.1	11.8
7. 海外留学	1.9	4.2	2.3	0.8	1.1	87.4	2.3	6.1
8. アルバイト	12.6	39.7	17.9	5.3	3.4	20.6	0.4	52.3

問9. 在学中に身につけておくべき知識、スキル

卒業生が在学中に身につけておくべきだったと考えている知識、スキルに関しては、全体で「語学力」が43.1%でトップ。次いで「専門的知識」40.1%、「プレゼンテーション」と「各種資格の取得」ともに27.9%となっている。

〈これまでの調査との比較〉でみると、大きく上昇している項目は見られない。

一方、若干低下がみられるのは「語学力」「ディベート能力」「海外留学」「プレゼンテーション」等の項目である。

問9. 在学中にもっとしておけば良かったと思うこと、身につけておきたかったと思うことがあれば選択肢から選んでください(3つ以内)

	回答者数	合計	1. 専門的知識	2. 語学力	3. 一般的な教養	4. ディベート能力	5. プレゼンテーション	6. コミュニケーション能力	
全体	262 (100.0)	633 (241.6)	105 (40.1)	113 (43.1)	33 (12.6)	43 (16.4)	73 (27.9)	65 (24.8)	
卒業年	1. 平成17年～平成20年	91 (100.0)	227 (249.5)	36 (39.6)	38 (41.8)	15 (16.5)	17 (18.7)	28 (30.8)	20 (22.0)
	2. 平成21年～平成24年	167 (100.0)	396 (237.1)	69 (41.3)	73 (43.7)	18 (10.8)	25 (15.0)	44 (26.3)	44 (26.3)
	3. 無回答	4 (100.0)	10 (250.0)	0 (-)	2 (50.0)	0 (-)	1 (25.0)	1 (25.0)	1 (25.0)

	7. OA機器・ITなどの使用法	8. 各種資格の取得	9. クラブ・サークル活動	10. ボランティア・社会貢献活動	11. 海外留学	12. アルバイト	13. その他	14. 無回答	
全体	26 (9.9)	73 (27.9)	18 (6.9)	10 (3.8)	36 (13.7)	18 (6.9)	10 (3.8)	10 (3.8)	
卒業年	1. 平成17年～平成20年	11 (12.1)	25 (27.5)	7 (7.7)	1 (1.1)	17 (18.7)	6 (6.6)	2 (2.2)	4 (4.4)
	2. 平成21年～平成24年	14 (8.4)	46 (27.5)	11 (6.6)	9 (5.4)	19 (11.4)	12 (7.2)	6 (3.6)	6 (3.6)
	3. 無回答	1 (25.0)	2 (50.0)	0 (-)	0 (-)	0 (-)	0 (-)	2 (50.0)	0 (-)

注：()内はサンプル数を100とした割合

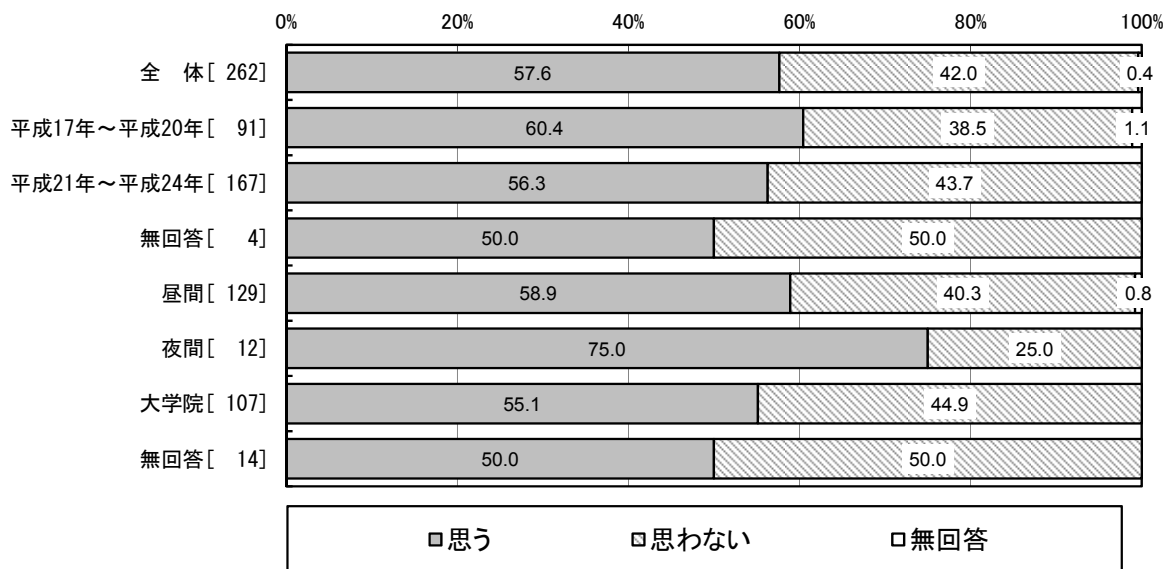
〈これまでの調査との比較〉

	専門的知識	語学力	一般的な教養	ディベート能力	シヨレゼンテ	シヨニケ	ななどの機器・IT	OA機器の使用法	各種資格の取得	ルクラブ・サーク	社会貢献活動	海外留学	アルバイト	その他	無回答
平成18年度[290]	46.2	45.5	15.5	15.5	27.6	21.4	14.8	32.4	9.7	5.9	12.1	6.6	7.2	4.1	
平成21年度[313]	43.5	46.6	13.4	20.1	32.6	23.3	14.4	35.1	9.6	6.1	14.4	4.5	4.2	2.9	
平成24年度[260]	40.4	49.2	15.4	21.5	31.5	24.6	12.3	27.7	8.1	5.8	18.1	6.2	2.7	1.5	
平成27年度[262]	40.1	43.1	12.6	16.4	27.9	24.8	9.9	27.9	6.9	3.8	13.7	6.9	3.8	3.8	

問10. 自分の子供、身内に室蘭工業大学への進学を勧める意思の有無

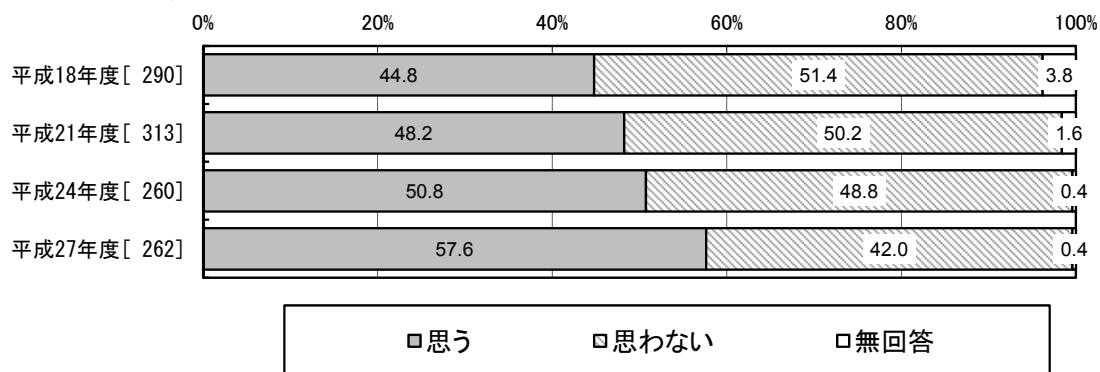
自分の子供、身内に本学への進学を勧めたいと思っている卒業生の割合は全体で 57.6%。平成 17 年～20 年卒業生が 60.4%、平成 21 年～24 年卒業生が 56.3%となっている。<これまでの調査との比較>でみると、肯定割合が向上している。

問10. 自分の子供、身内に室蘭工業大学への進学を勧めたいと思いますか<0803>



<これまでの調査との比較>

問10. 自分の子供、身内に室蘭工業大学への進学を勧めたいと思いますか<0803>



問11. 12. 室蘭工業大学進学を勧める理由・勧めない理由

今回調査において本学進学を勧める理由としては「国立大学である」が79.5%でトップ。その他「就職に有利」43.7%、「自分の母校だから」32.5%と続いている。

逆に、進学を勧めない理由としては、「本人が決めることだから」77.3%が最も多い。次いで「自宅から通えない」15.5%となっている。

なお、前回調査まで、進学を勧めない理由として「教育スタッフが充実していない」という項目が平成18年度調査(29.5%)、21年度(21.0%)、24年度(17.3%)というように相対的に高くなっていましたが、今回調査では8.2%となっており本項目に関して指摘する割合は低下している。

<室蘭工業大学進学を勧める理由>

問11. [問10で1と答えた方]その理由(3つ以内)

	回答者数	合計	1. 教育スタッフが充実している	2. 国立大学である	3. キャンパスの雰囲気がよい	4. 教育施設が充実している	5. 有能な人材を送り出している	6. 就職に有利
全体	564 (100.0)	1,295 (229.6)	67 (11.9)	438 (77.7)	128 (22.7)	63 (11.2)	45 (8.0)	216 (38.3)
調査年度	1. 平成18年度	130 (100.0)	19 (14.6)	97 (74.6)	38 (29.2)	23 (17.7)	16 (12.3)	37 (28.5)
	2. 平成21年度	151 (100.0)	18 (11.9)	124 (82.1)	33 (21.9)	21 (13.9)	6 (4.0)	57 (37.7)
	3. 平成24年度	132 (100.0)	15 (11.4)	97 (73.5)	32 (24.2)	7 (5.3)	6 (4.5)	56 (42.4)
	4. 平成27年度	151 (100.0)	15 (9.9)	120 (79.5)	25 (16.6)	12 (7.9)	17 (11.3)	66 (43.7)

	7. スポーツ・文化活動が活発	8. 偏差値が高い	9. 高校の先生・塾が勧める	10. 自分の母校だから	11. 自宅から通える	12. 歴史や伝統がある	13. その他	14. 無回答
全体	4 (0.7)	4 (0.7)	0 (-)	205 (36.3)	37 (6.6)	31 (5.5)	50 (8.9)	7 (1.2)
調査年度	1. 平成18年度	0 (-)	1 (0.8)	49 (37.7)	20 (15.4)	13 (10.0)	13 (10.0)	1 (0.8)
	2. 平成21年度	3 (2.0)	2 (1.3)	60 (39.7)	11 (7.3)	12 (7.9)	9 (6.0)	3 (2.0)
	3. 平成24年度	0 (-)	1 (0.8)	47 (35.6)	5 (3.8)	2 (1.5)	14 (10.6)	0 (-)
	4. 平成27年度	1 (0.7)	0 (-)	49 (32.5)	1 (0.7)	4 (2.6)	14 (9.3)	3 (2.0)

注:()内はサンプル数を100とした割合

<室蘭工業大学進学を勧めない理由>

問12. [問10で2と答えた方]その理由(3つ以内)

	回答者数	合 計	1. 教育ス タッフが 充実して いない	2. 国立大学 である	3. キャンパ スの雰 囲気にな じめない	4. 教育施設 が充実し ていない	5. 有能な卒 業生が少 ない	6. 就職に不 利	7. スポー ツ・文化 活動が活 発でない
全 体	543 (100.0)	1,039 (191.3)	108 (19.9)	1 (0.2)	39 (7.2)	78 (14.4)	37 (6.8)	60 (11.0)	51 (9.4)
調 査 年 度	1. 平成18年度	149 (100.0)	302 (202.7)	44 (29.5)	1 (0.7)	9 (6.0)	27 (18.1)	11 (7.4)	16 (10.7)
	2. 平成21年度	157 (100.0)	318 (202.5)	33 (21.0)	0 (-)	16 (10.2)	24 (15.3)	13 (8.3)	15 (9.6)
	3. 平成24年度	127 (100.0)	234 (184.3)	22 (17.3)	0 (-)	9 (7.1)	16 (12.6)	8 (6.3)	18 (14.2)
	4. 平成27年度	110 (100.0)	185 (168.2)	9 (8.2)	0 (-)	5 (4.5)	11 (10.0)	5 (4.5)	11 (10.0)

	8. 偏差値が 低い	9. 高校の先 生・塾が 勧めない	10. 自分の母 校だから	11. 自宅から 通えない	12. 歴史や伝 統を感じ ない	13. 本人が決 めること だから	14. その他	15. 無回答
全 体	73 (13.4)	0 (-)	11 (2.0)	83 (15.3)	12 (2.2)	385 (70.9)	92 (16.9)	9 (1.7)
調 査 年 度	1. 平成18年度	17 (11.4)	0 (-)	4 (2.7)	18 (12.1)	4 (2.7)	108 (72.5)	31 (20.8)
	2. 平成21年度	25 (15.9)	0 (-)	3 (1.9)	27 (17.2)	1 (0.6)	103 (65.6)	28 (17.8)
	3. 平成24年度	14 (11.0)	0 (-)	2 (1.6)	21 (16.5)	4 (3.1)	89 (70.1)	23 (18.1)
	4. 平成27年度	17 (15.5)	0 (-)	2 (1.8)	17 (15.5)	3 (2.7)	85 (77.3)	10 (9.1)

注:()内はサンプル数を100とした割合

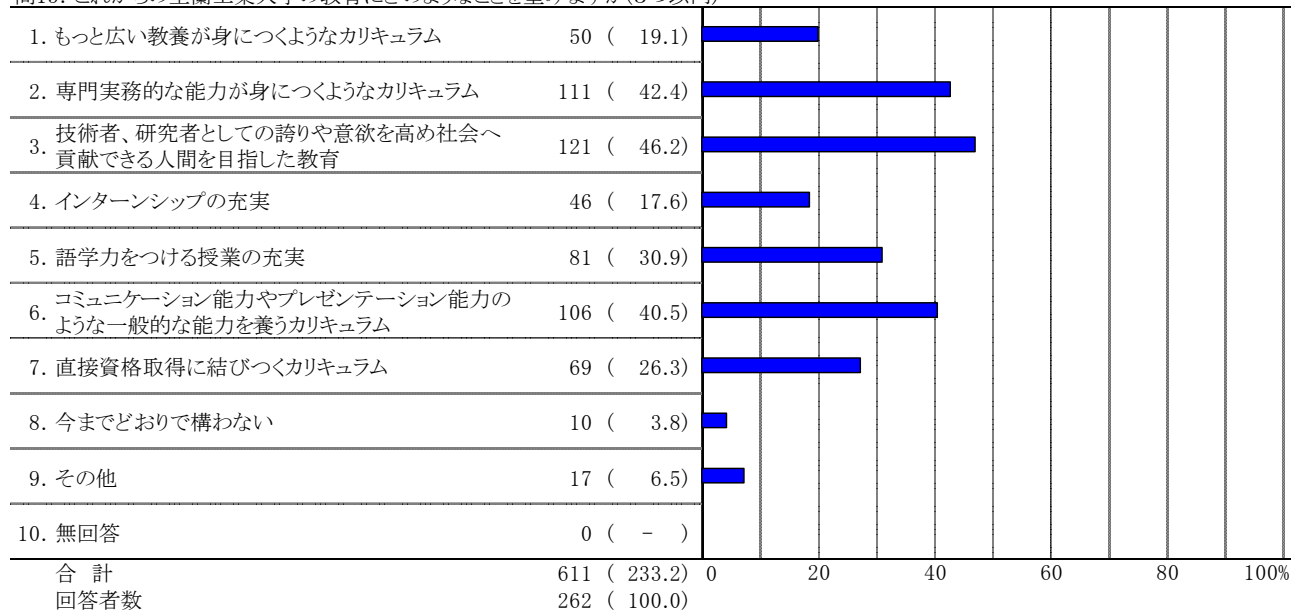
問13. これからの室蘭工業大学の教育に望む事項

卒業生が望む本学の教育内容・方向性についての設問である。

5割以上の項目はなく、「技術者、研究者としての誇りや意欲を高め社会へ貢献できる人間を目指した教育」46.2%、次いで「専門実務的な能力が身につくようなカリキュラム」42.4%、「コミュニケーション能力やプレゼンテーション能力のような一般的な能力を養うカリキュラム」40.5%となっている。

<これまでの調査との比較>でみると、一貫して増加、減少している項目は見あたらない。

問13. これからの室蘭工業大学の教育にどのようなことを望みますか(3つ以内)



<これまでの調査との比較>

問13. これからの室蘭工業大学の教育にどのようなことを望みますか(3つ以内)

	回答者数	合計	1. もっと広い教養が身につくようなカリキュラム	2. 専門実務的な能力が身につくようなカリキュラム	3. 技術者、研究者としての誇りや意欲を高め社会へ貢献できる人間を目指した教育	4. インターンシップの充実	5. 語学力をつける授業の充実	6. コミュニケーション能力やプレゼンテーション能力のような一般的な能力を養うカリキュラム	7. 直接資格取得に結びつくカリキュラム	8. 今までどおりで構わない	9. その他	10. 無回答	
全体	1,125 (100.0)	2,784 (247.5)	222 (19.7)	526 (46.8)	536 (47.6)	189 (16.8)	343 (30.5)	512 (45.5)	347 (30.8)	38 (3.4)	61 (5.4)	10 (0.9)	
調査年度	1. 平成18年度	290 (100.0)	746 (257.2)	64 (22.1)	137 (47.2)	159 (54.8)	41 (14.1)	86 (29.7)	135 (46.6)	95 (32.8)	9 (3.1)	17 (5.9)	3 (1.0)
	2. 平成21年度	313 (100.0)	819 (261.7)	68 (21.7)	159 (50.8)	146 (46.6)	59 (18.8)	88 (28.1)	150 (47.9)	113 (36.1)	13 (4.2)	17 (5.4)	6 (1.9)
	3. 平成24年度	260 (100.0)	608 (233.8)	40 (15.4)	119 (45.8)	110 (42.3)	43 (16.5)	88 (33.8)	121 (46.5)	70 (26.9)	6 (2.3)	10 (3.8)	1 (0.4)
	4. 平成27年度	262 (100.0)	611 (233.2)	50 (19.1)	111 (42.4)	121 (46.2)	46 (17.6)	81 (30.9)	106 (40.5)	69 (26.3)	10 (3.8)	17 (6.5)	0 (-)

注:()内はサブ #数を100とした割合

問14. 室蘭工業大学出身で「良かった」「良くなかった」と思うこと

室蘭工業大学出身で「良かったと思う点」、「良くなかったと思う点」の自由記述については回答者 262 人中 144 人から具体的な記述をいただいた。

「良かったと思う点」で記載が多いのは、「入社した会社に先輩がいて心強かった」「友人に恵まれた。深い交友関係を築けた」、「学習・研究に集中でき、業務に活かすことができた」、「就職に有利」、「国立大学である」等である。

逆に良くなかった点としては、「(北海道以外では)知名度が低い」、「他校(ほかの大学・専門学校)や企業との接点が少なかった」、「語学を身につける授業が充実していない」、「交通が不便、周囲になにもない」等が挙げられている。

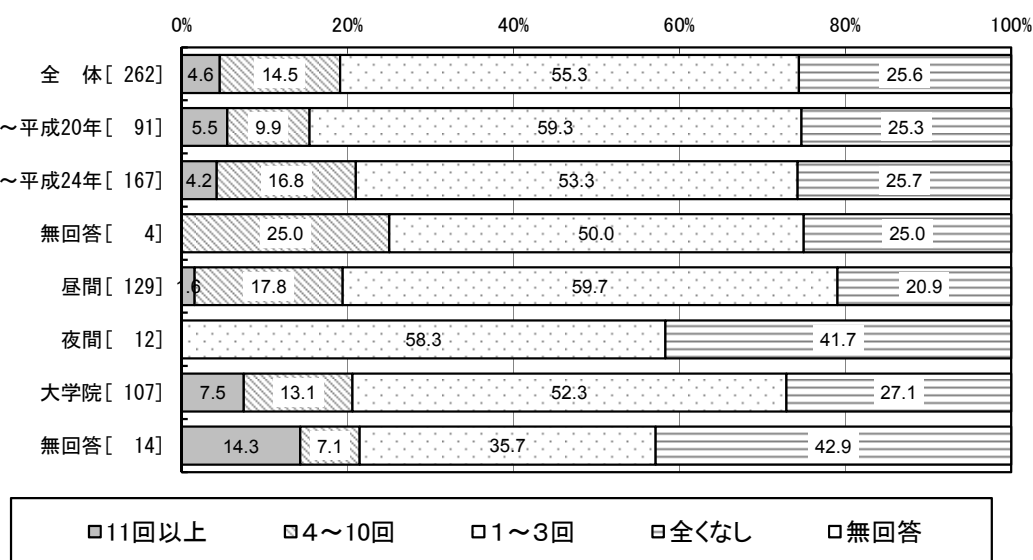
自由記述については巻末に全文を掲載したので参照いただきたい。

問15. 卒業後のキャンパス訪問状況

卒業後に1回以上キャンパスを訪れたことのある卒業生は、全体で74.4%。

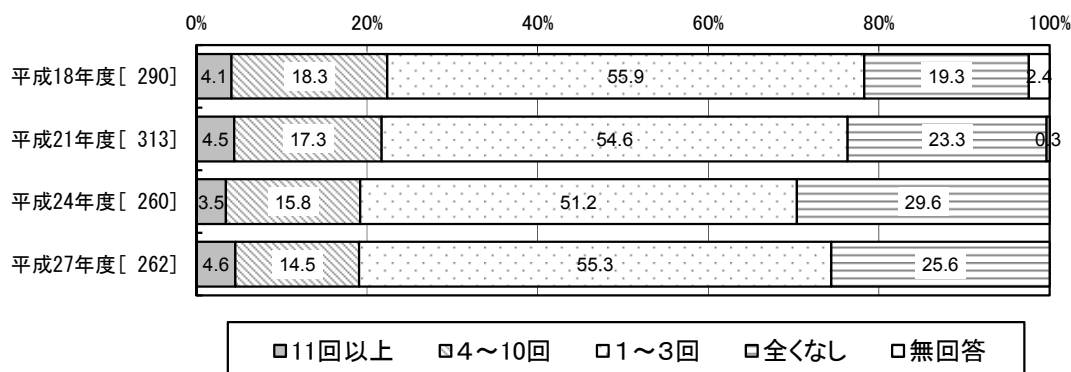
<これまでの調査との比較>でみるとキャンパスを訪れる卒業生の割合に大きな変化は見られない。

問15. 卒業後どれくらいキャンパスを訪れましたか<0831>



<これまでの調査との比較>

問15. 卒業後どれくらいキャンパスを訪れましたか<0831>



問16. 卒業後にキャンパスを訪問した目的

卒業後にキャンパスを訪問した目的としては、「ゼミの先生や仲間に会いに」が40.1%で最も多い。次いで「後輩のクラブ活動の指導で」11.8%、「大学祭・同窓会などで」9.5%の順になっている。

問16. 卒業後、キャンパスを訪れた主な目的を選択肢から選んでください(3つ以内)

	大学祭・同窓会などで	後輩のクラブ活動の指導で	図書館など大学施設の利用で	ゼミの先生や仲間に会いに	聴講や研究で	卒業に成績証明書をも	家族に母校を見せるため	公開講座、各種講演会を聞くために	その他	無回答
全体[262]	9.5	11.8	2.7	40.1	1.9	3.4	5.0	1.5	21.8	26.3
平成17年～平成20年[91]	7.7	11.0	4.4	34.1	3.3	1.1	8.8	1.1	23.1	26.4
平成21年～平成24年[167]	10.8	12.6	1.8	42.5	1.2	4.8	3.0	1.8	21.6	26.3
無回答[4]	—	—	—	75.0	—	—	—	—	—	25.0
昼間[129]	13.2	16.3	2.3	40.3	0.8	5.4	6.2	1.6	17.8	21.7
夜間[12]	16.7	8.3	—	8.3	—	—	8.3	—	16.7	41.7
大学院[107]	5.6	8.4	2.8	45.8	2.8	1.9	3.7	0.9	27.1	28.0
無回答[14]	—	—	7.1	21.4	7.1	—	—	7.1	21.4	42.9

問17. 同窓との継続的なネットワークの有無とその状況

同窓と何らかの繋がりを持っている卒業生は、全体の76.3%。

具体的には「先輩・同期・後輩とのプライベートな繋がりがある」が66.0%で最も多い。次いで「クラブ・サークル・ゼミの集まりに参加している」18.7%、「先生との繋がりがある」13.4%となっている。

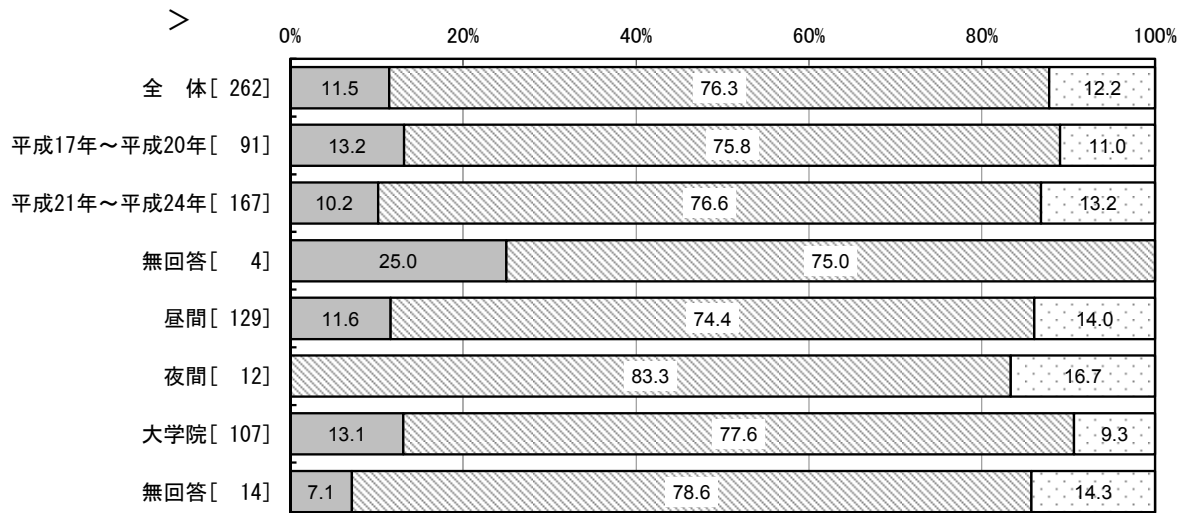
問17. 卒業後、同窓との繋がりをどのように持っておられますか(3つ以内) <0851>

	同窓会・地域支部に参加	企業内・職域などでの同窓集まり	ミックス・サークル・ゼミ	クラブ・サークル・ゼミ	先輩・同期・後輩との繋がり	先生との繋がりがある	スポーツ・音楽などの行事を通して	特別なものは無い	無回答
全体[262]	2.7	11.1	18.7	66.0	13.4	0.4	23.3	0.4	
平成17年～平成20年[91]	3.3	11.0	16.5	64.8	12.1	—	26.4	1.1	
平成21年～平成24年[167]	1.8	11.4	20.4	66.5	14.4	0.6	21.6	—	
無回答[4]	25.0	—	—	75.0	—	—	25.0	—	
昼間[129]	3.1	7.8	14.0	65.1	5.4	—	26.4	0.8	
夜間[12]	—	8.3	16.7	41.7	—	—	50.0	—	
大学院[107]	2.8	14.0	24.3	70.1	24.3	—	16.8	—	
無回答[14]	—	21.4	21.4	64.3	14.3	7.1	21.4	—	

問18. 大学及び同窓会、記念事業等に対する寄付や献金の有無と今後の意向

本学の同窓会、記念事業等に寄付や献金をしたことがある卒業生の割合は、全体の11.5%。一方、「したことはないがしたい意思はある」卒業生も12.2%でほぼ同数存在する。

問18. 室蘭工業大学や同窓会、記念事業等に寄付や献金をしたことがありますか<0811

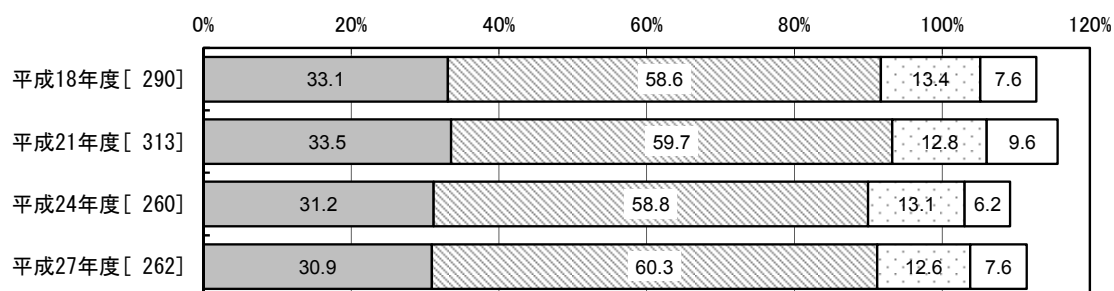


したことがある したことがない したことはないがしたい意思はある 無回答

問19. 大学の情報に触れる媒体

本学の情報に触れる主な媒体としては、「室蘭工業大学のホームページ」が60.3%と最も多い。これまでの調査と比較しても大きな変化は見られない。

問19. 室蘭工業大学の情報に触れる主な媒体は何ですか(複数回答)



マスコミ 室蘭工業大学のホームページ その他 無回答

問20. ここ2～3年で目にした大学に関するニュース・話題(自由記述)

(件)

研究室の爆発事故等	12
女子寮の完成	7
ジンギスカン鍋	7
ものづくり基盤センターの活動	5
学科・専攻の再編成	4
シップリサイクル	3
ロケット・航空技術	3
その他	16

問21. 現在の勤務先の業種と会社内での職種、役職

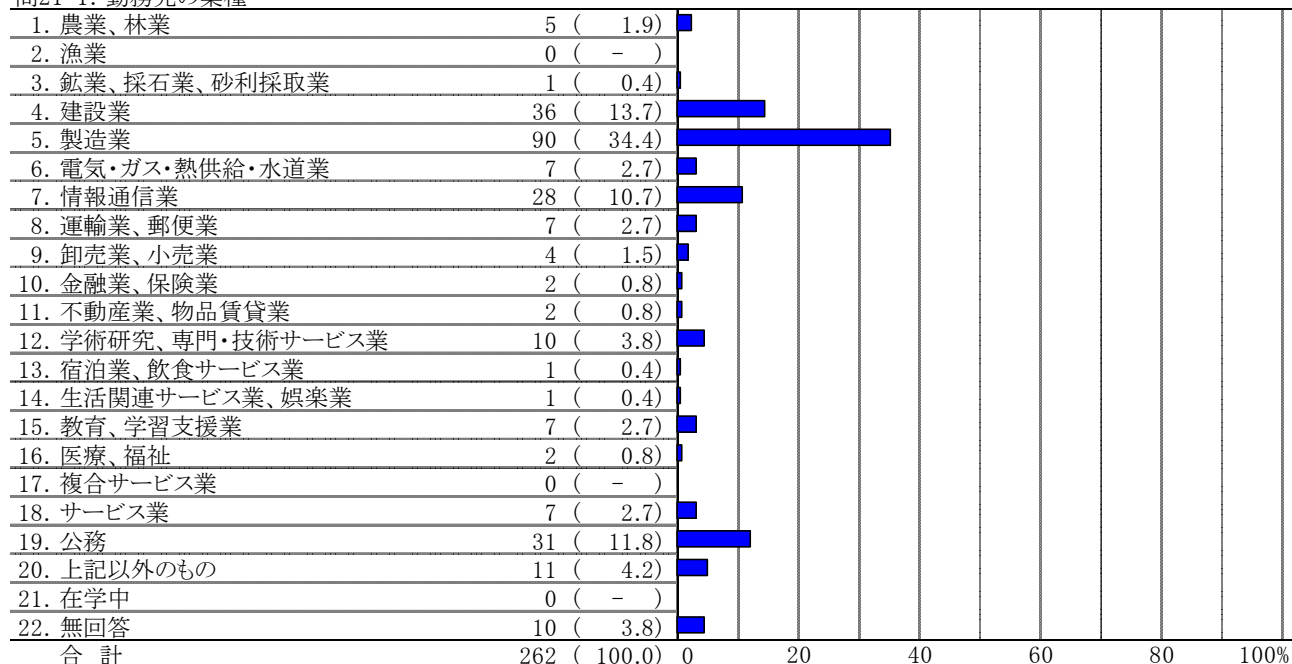
卒業生の勤務先の業種としては、「製造業」34.4%がトップ。次いで「建設業」13.7%、「公務」11.8%、「情報通信業」10.7%となっている。

社内での職種としては、「専門的・技術的職業従事者」が66.8%と圧倒的に多い。

比較的若年の卒業生がアンケート対象のため、現在の役職については一般職の割合が高くなっていると思われる。

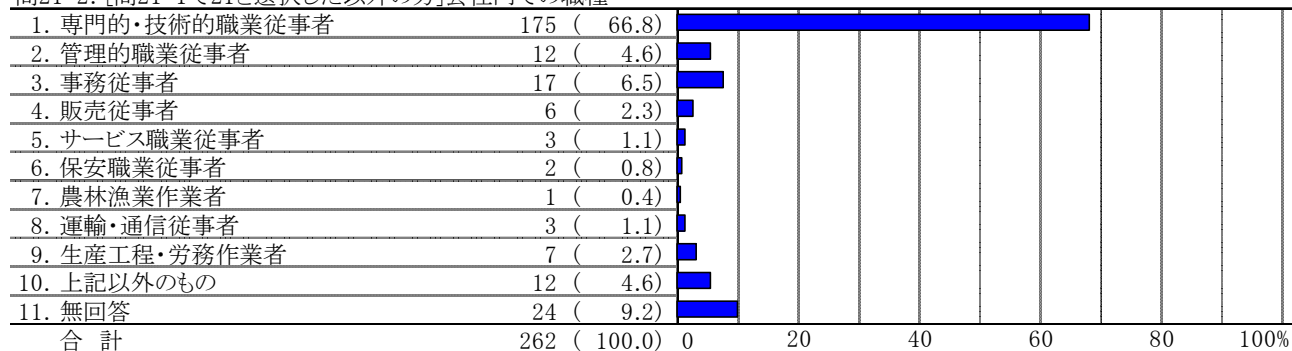
問21. あなたの現在の勤務先(自営を含む)の業種と会社内での職種、役職

問21-1. 勤務先の業種



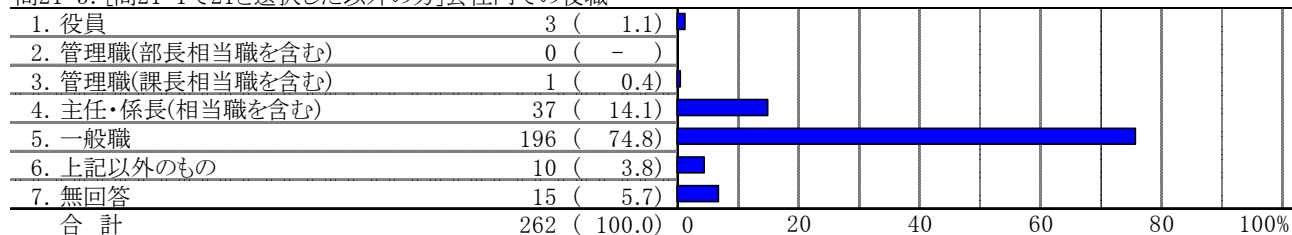
問21. あなたの現在の勤務先(自営を含む)の業種と会社内での職種、役職

問21-2. [問21-1で21と選択した以外の方]会社内での職種



問21. あなたの現在の勤務先(自営を含む)の業種と会社内での職種、役職

問21-3. [問21-1で21と選択した以外の方]会社内での役職

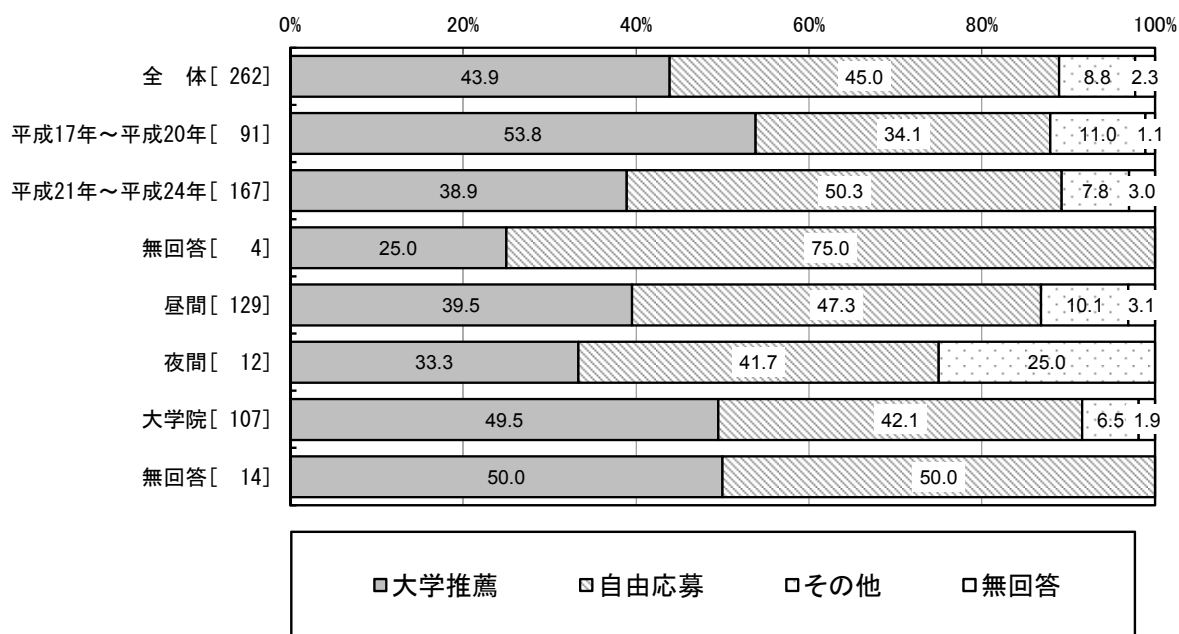


問22-1. 就職の形式(大学推薦か自由応募か)

就職した際の形式は、「大学推薦」が全体の43.9%。今回調査における卒業年別では「平成17年～平成20年」において、その割合が53.8%に対して、「平成21年～平成24年」は38.9%となっており、かなりの違いが把握された。

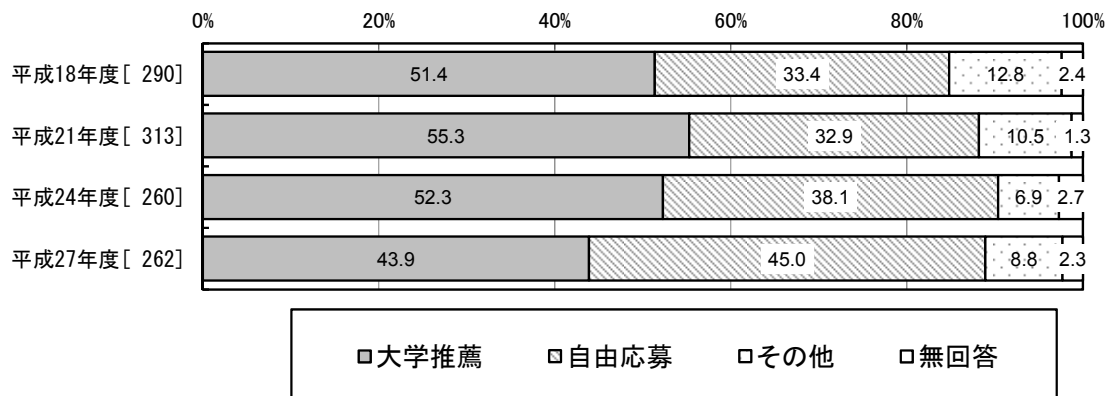
<これまでの調査との比較>でも「大学推薦」の割合が低くなっていることがわかる。

問22. あなたが卒業時に就職した際の形式や満足度
問22-1. 就職は大学推薦でしたか自由応募でしたか



<これまでの調査との比較>

問22-1. 就職は大学推薦でしたか自由応募でしたか



問22-2. 就職時の大学サポートの満足度

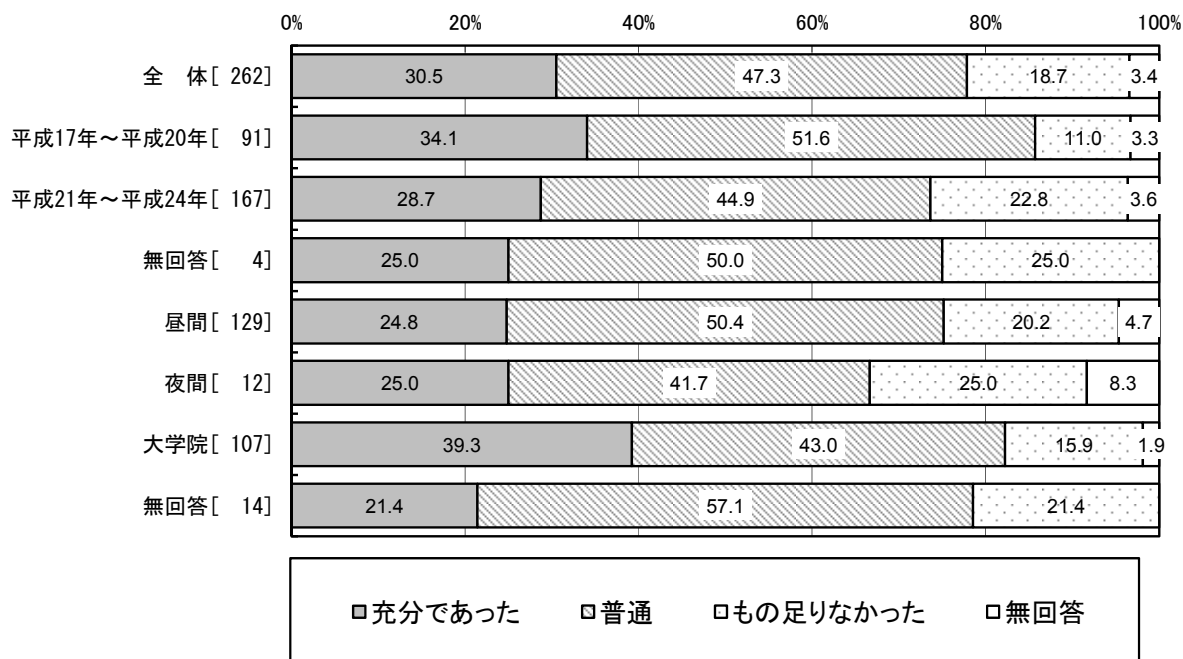
就職時の大学側のサポートについて、「充分であった」「普通」の合計は全体で77.8%。

平成17～20年卒業生と平成21～24年卒業生の比較で見ると、平成21～24年卒業生において「充分であった」の割合が5.4%減少、「普通」についても6.7%減少している。

一方、全体として〈これまでの調査との比較〉でみると、就職時の大学側のサポートについての満足度の向上が認識される。

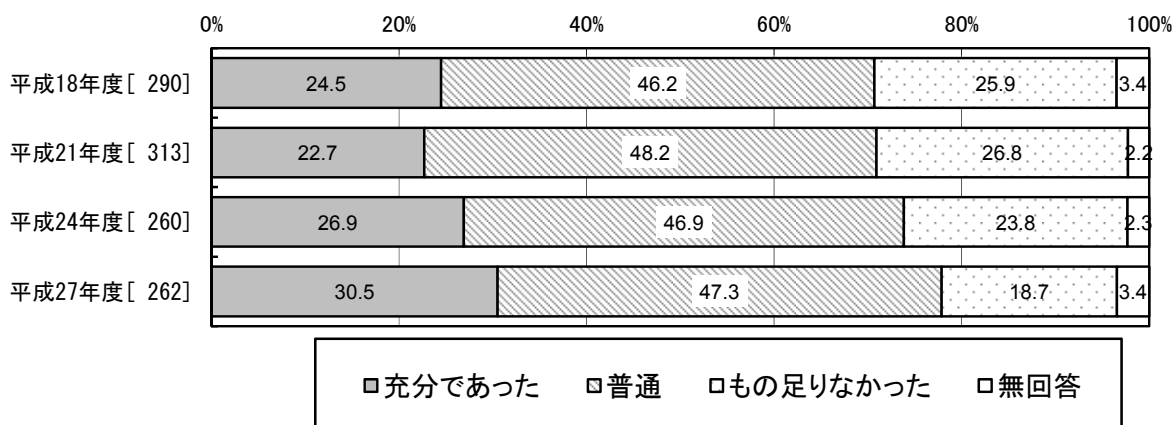
問22. あなたが卒業時に就職した際の形式や満足度

問22-2. 就職時における大学側のサポートは充分でしたか<0426>



〈これまでの調査との比較〉

問22-2. 就職時における大学側のサポートは充分でしたか<0426>



問22-3. 卒業時の就職先に関する満足度

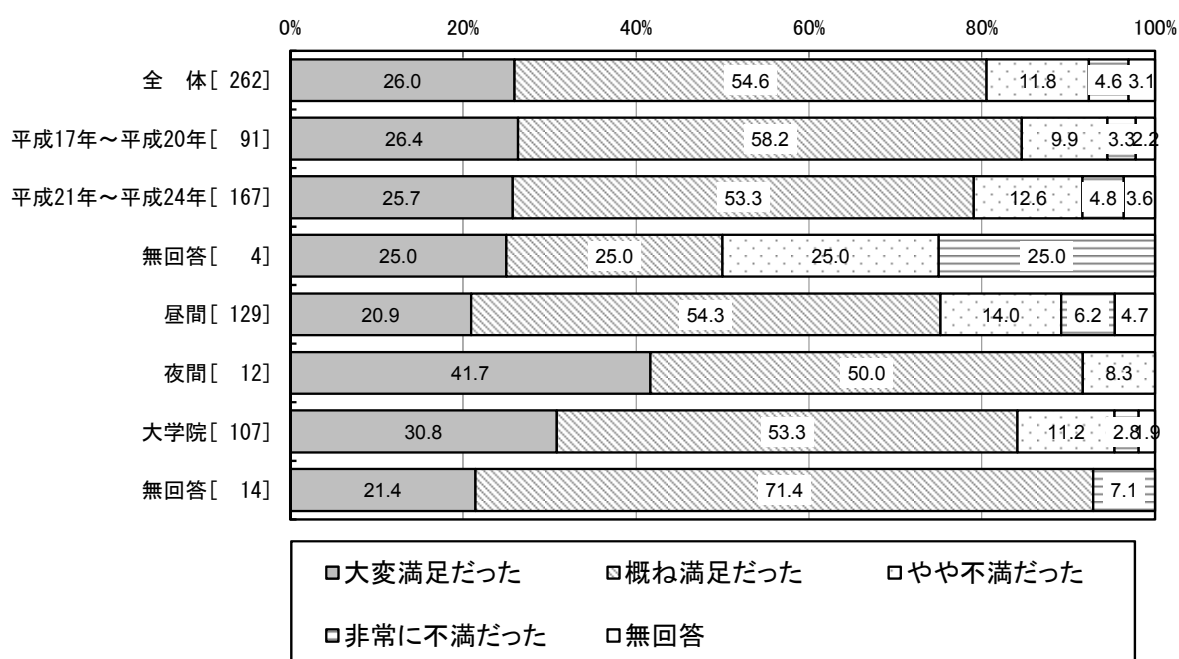
卒業時の就職先に関しての満足度については、「大変満足だった」「概ね満足だった」を合わせて80.6%。

平成17～20年卒業生と平成21～24年卒業生の比較で見ると、平成17～20年卒業生の方が若干満足度が高くなっている。

<これまでの調査との比較>でみると、「大変満足だった」が平成24年調査では20.4%、今回調査では26.0%となっている。

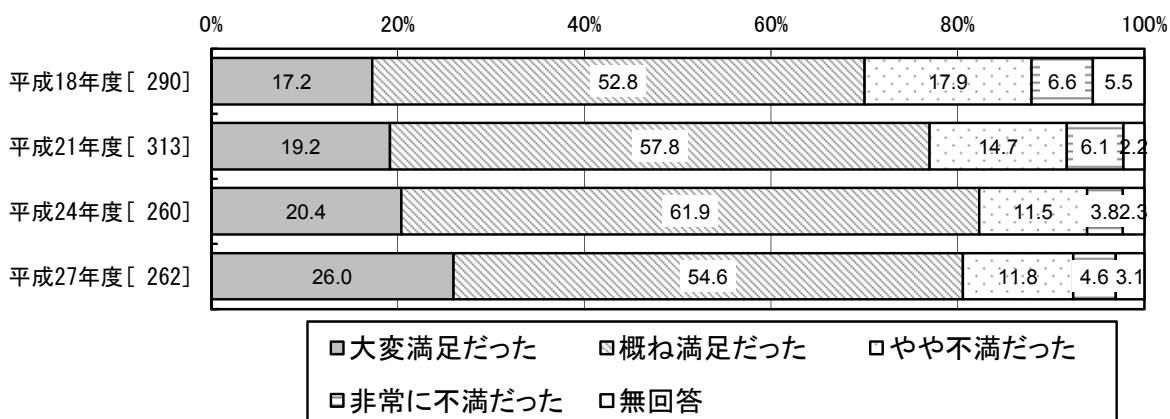
一方、「概ね満足だった」が平成24年調査では61.9%、今回調査では54.6%となっており、「大変満足だった」「概ね満足だった」割合は、前回調査より僅か(1.7%)に減少している。

問22. あなたが卒業時に就職した際の形式や満足度
問22-3. 卒業時の就職先に関する満足度はどうでしたか<0402>



<これまでの調査との比較>

問22-3. 卒業時の就職先に関する満足度はどうでしたか<0402>

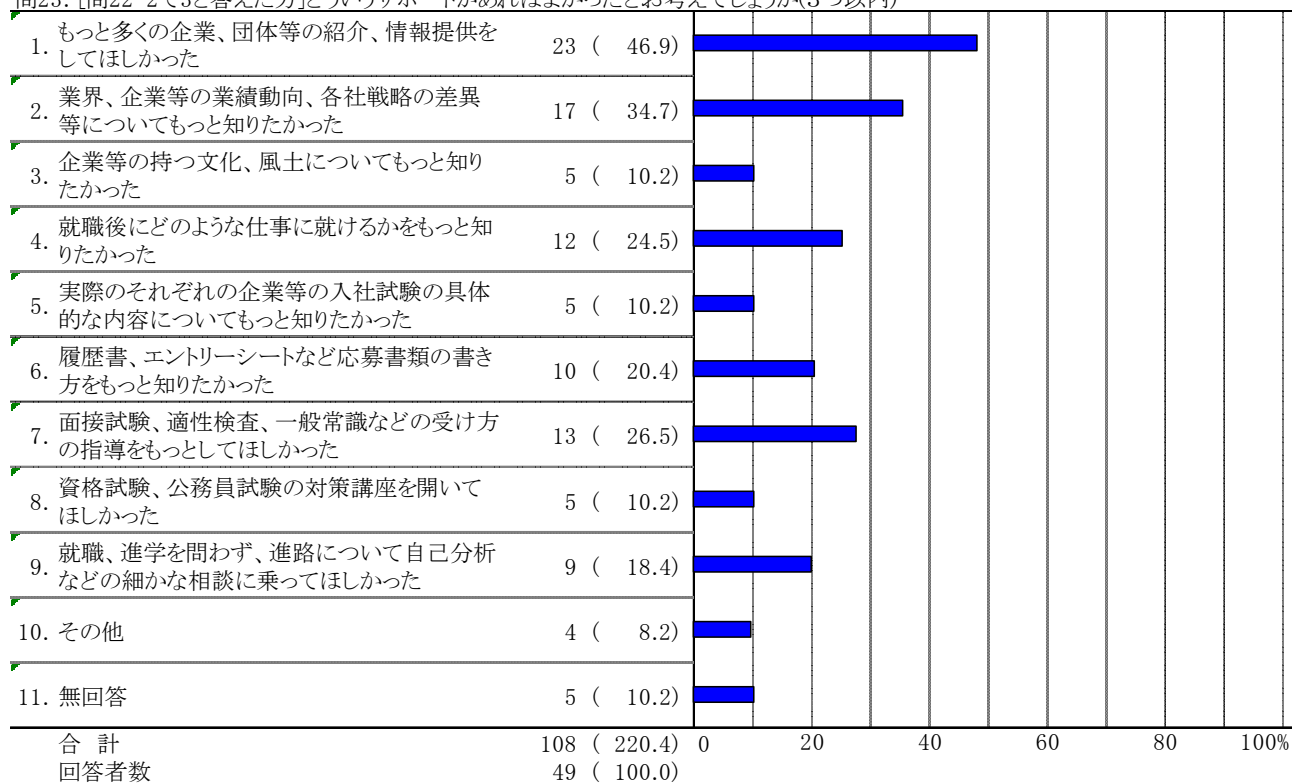


問23. 就職時に必要だったと思うサポートの内容

就職時の大学側のサポートが「もの足りなかった」と回答した卒業生が考えるサポートの種類や項目を3つ以内の選択式で聞いた集計である。

「もっと多くの企業、団体等の紹介、情報提供をしてほしかった」が46.9%で最も多い。その他、20%以上の割合を占めた項目としては、「業界、企業等の業績動向、各社戦略の差異等についてもっと知りたかった」34.7%、「面接試験、適性検査、一般常識などの受け方の指導をもっとしてほしかった」26.5%、「就職後にどのような仕事に就けるかをもっと知りたかった」24.5%、「履歴書、エントリーシートなど応募書類の書き方をもっと知りたかった」20.4%となっている。

問23. [問22-2で3と答えた方] どのようなサポートがあればよかったとお考えでしょうか(3つ以内)



<これまでの調査との比較>

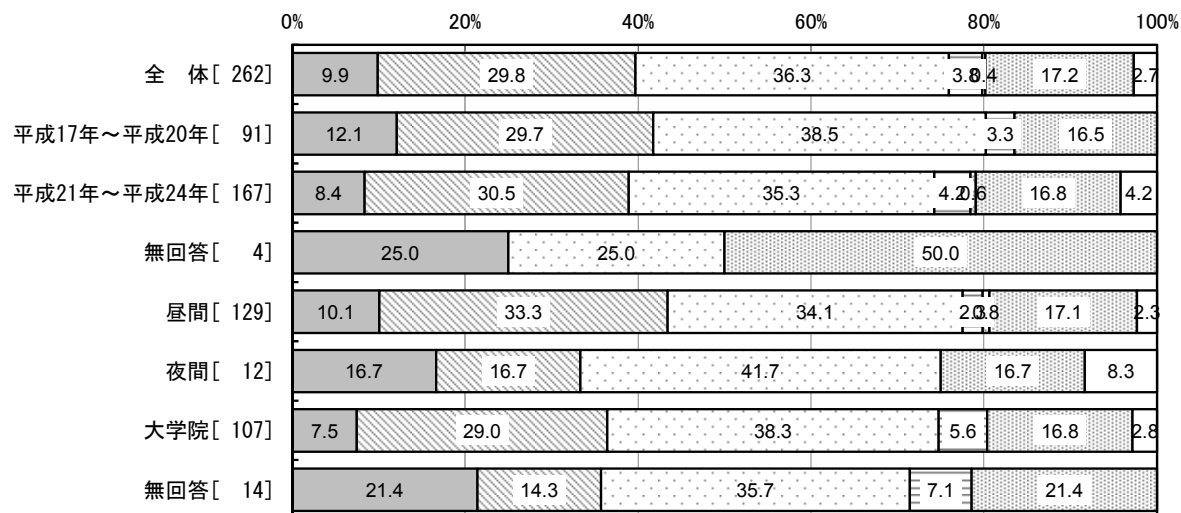
	介も 情と 報多 提く 供の を企 し業 て団 ほ体 し等 か等 のた紹	り戦 た略 かの か差 つ異 た業 等 にの 業 績 動 向 と各 社	て業 も等 つと の知 りつ た文 化、 風 土 に つ い	る就 か職 を後 もに つど の知 りよ うな 仕事 に就 け	も試 実験 際の の知 具そ れ体 的ぞ かな れ内 容企 業 等 の 入 社	たか 募書 類の エン トリー シート など	てな ほし か受 け方 の適 性 指 導 を 一 般 常 識	座を 開い てほ し か つ た の 対 策 講	にいて 乗つ て自 己分 析な か つ た の 細 か 進 路 に 談 つ	その他	無 回 答
平成18年度 [75]	38.7	29.3	12.0	25.3	14.7	10.7	22.7	21.3	34.7	13.3	10.7
平成21年度 [84]	36.9	27.4	9.5	26.2	11.9	13.1	20.2	25.0	21.4	19.0	14.3
平成24年度 [62]	37.1	33.9	14.5	29.0	11.3	14.5	19.4	24.2	21.0	11.3	12.9
平成27年度 [49]	46.9	34.7	10.2	24.5	10.2	20.4	26.5	10.2	18.4	8.2	10.2

問24. 勤務先での室蘭工業大学及び卒業生の評価

勤務先における本学と卒業生に対する評価について、「非常に高い評価を受けていると感じる」「やや高い評価を受けていると感じる」を合わせた肯定回答の割合は、全体で39.7%。

<これまでの調査との比較>では、全体として大きな変化は把握できない。

問24. 勤務先での室蘭工業大学または卒業生の評価をどう感じていますか<0406>



- | | |
|--|---|
| <input type="checkbox"/> 非常に高い評価を受けていると感じる | <input type="checkbox"/> やや高い評価を受けていると感じる |
| <input type="checkbox"/> 普通である | <input type="checkbox"/> やや低い評価を受けていると感じる |
| <input type="checkbox"/> 非常に低い評価を受けていると感じる | <input type="checkbox"/> わからない |
| <input type="checkbox"/> 無回答 | |

<これまでの調査との比較>

問24. 勤務先での室蘭工業大学または卒業生の評価をどう感じていますか<0406>

	非常に高い評価を受けていると感じる	やや高い評価を受けていると感じる	普通である	やや低い評価を受けていると感じる	非常に低い評価を受けていると感じる	わからない	無回答	普通以上
平成18年度 [290]	11.4	29.3	32.1	5.2	1.7	15.2	5.2	72.8
平成21年度 [313]	6.1	29.7	37.7	5.1	2.2	17.6	1.6	73.5
平成24年度 [260]	6.9	30.8	42.3	5.8	0.4	12.7	1.2	80.0
平成27年度 [262]	9.9	29.8	36.3	3.8	0.4	17.2	2.7	76.0

問25. 転職の経験の有無と回数

転職経験のある卒業生の割合は、全体で18.7%。平成17～20年卒業生で29.7%、平成21～24年卒業生では12.6%となっている。

<これまでの調査との比較>でみると、わずかではあるが転職経験のある卒業生の割合は、減少傾向にある。

	1回	2回	3回以上	転職の経験はない	就職の経験はない	無回答	1回以上の転職経験者
全体[262]	14.5	3.4	0.8	74.8	3.8	2.7	18.7
平成17年～平成20年[91]	20.9	6.6	2.2	67.0	3.3	—	29.7
平成21年～平成24年[167]	11.4	1.2	—	79.6	3.6	4.2	12.6
無回答[4]	—	25.0	—	50.0	25.0	—	25.0
昼間[129]	17.8	6.2	1.6	68.2	3.9	2.3	25.6
夜間[12]	16.7	—	—	75.0	—	8.3	16.7
大学院[107]	10.3	0.9	—	83.2	2.8	2.8	11.2
無回答[14]	14.3	—	—	71.4	14.3	—	14.3

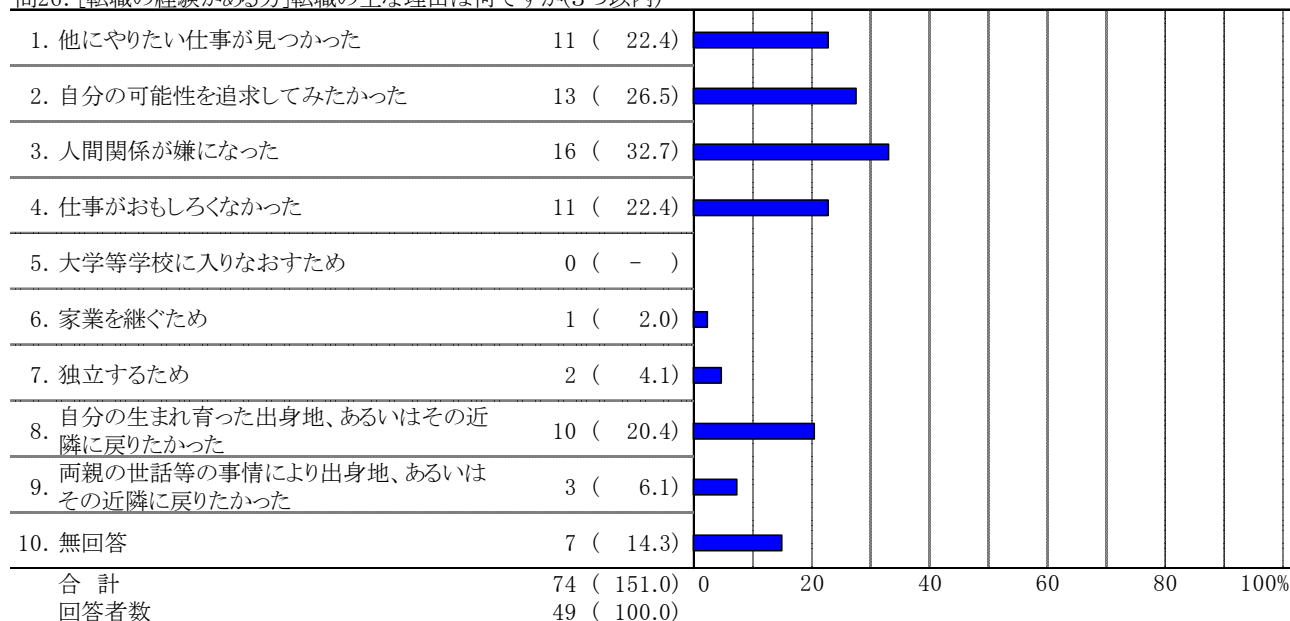
<これまでの調査との比較>

	1回	2回	3回以上	転職の経験はない	就職の経験はない	無回答	1回以上の転職経験者
平成18年度[290]	21.7	4.8	2.1	64.5	3.1	3.8	28.6
平成21年度[313]	16.6	2.6	2.6	74.4	3.2	0.6	21.7
平成24年度[260]	15.8	1.9	2.7	75.4	3.1	1.2	20.4
平成27年度[262]	14.5	3.4	0.8	74.8	3.8	2.7	18.7

問26. 転職の主な理由

転職の主な理由として最も多いのは「人間関係が嫌になった」32.7%、次いで「自分の可能性を追求してみたかった」26.5%となっている。

問26. [転職の経験がある方]転職の主な理由は何ですか(3つ以内)



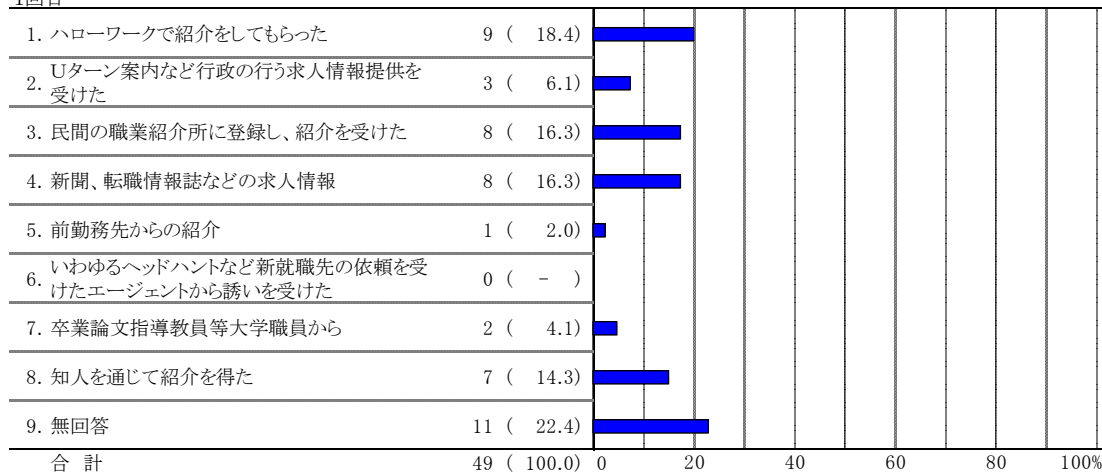
問27. 新たな就職先を探した手段

新たな就職先を探す手段としては、1回目は「ハローワークで紹介してもらった」が18.4%で最も多く、次いで「民間の職業紹介所に登録し、紹介を受けた」「新聞、転職情報誌などの求人情報」ともに16.3%となっている。

2回目については母数が少ないので参考程度としていただきたい。

問27. [転職の経験のある方]新たな就職先はどのようにして見つけられましたか

1回目



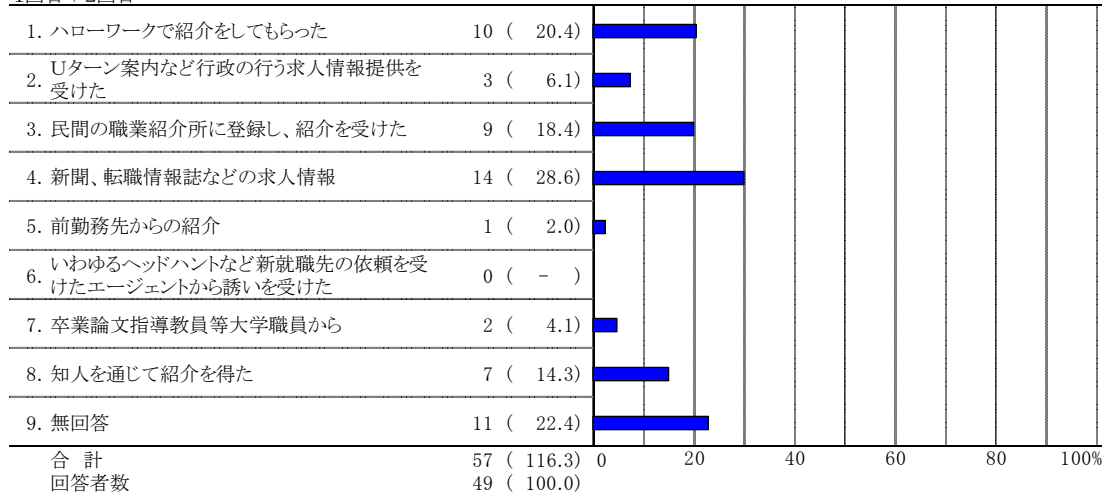
問27. [転職の経験のある方]新たな就職先はどのようにして見つけられましたか

2回目



問27. [転職の経験のある方]新たな就職先はどのようにして見つけられましたか

1回目+2回目



問28. 本学が転職支援サービスを提供する場合に求めるサービス内容

本学が卒業生に対して転職支援サービスを提供するとした場合に求めるサービス内容としては、「求人情報」が62.2%で最も多く、「資格試験、公務員講座を開設し、卒業生にも開放してほしい」36.3%、「室蘭工業大学で行われる就職ガイダンス(面接試験の受け方などを含む)、企業セミナー等を、卒業生にも開放してほしい」24.4%の順になっている。

卒業年度で比較すると、「求人情報」に関して平成21～24年卒業生が65.3%と平成17～20年卒業生58.2%よりも7.1%高くなっている。

問28. 室蘭工業大学が卒業生に対し転職支援サービスを提供するとした場合、どのようなサービスを受けたいと思われるでしょうか(複数回答)

	求人情報	資格試験、公務員講座を開設し、卒業生にも開放してほしい	室蘭工業大学で行われる就職ガイダンス(面接試験の受け方などを含む)、企業セミナー等を、卒業生にも開放してほしい	その他	無回答
全体[262]	62.2	36.3	24.4	3.8	14.1
平成17年～平成20年[91]	58.2	33.0	23.1	3.3	14.3
平成21年～平成24年[167]	65.3	37.7	25.7	3.0	14.4
無回答[4]	25.0	50.0	—	50.0	—
昼間[129]	61.2	41.9	25.6	4.7	17.8
夜間[12]	75.0	66.7	25.0	—	8.3
大学院[107]	61.7	27.1	21.5	3.7	12.1
無回答[14]	64.3	28.6	35.7	—	—

問29. 卒業生として室蘭工業大学に期待すること、意見・要望など

回答者 262 名の内 70 名から具体的な記述をいただいたものを大まかに分類して掲載した。「社会で活躍できる人材の育成」「広報力の強化」「就職支援改善」「教育改善」「語学力の強化」などの観点から複数の記載があった。また、「本学への期待」や「総合的な観点」からの記載も多数いただいた。

問29. 室蘭工業大学に期待すること、ご意見・ご要望などがあれば、自由にお書きください。	
社会で活躍できる人材の育成	コミュニケーション能力を高める対応を取る事で、社会人になった時に活躍できる人が多くなると思います。
	人間力のある技術者の育成。 資格取得(技術士試験等)を目指す、卒業生向けの公開講座の開設。
	室工大は頑張っている人と、そうでない人との差が大きいと思います。将来に向けて、夢や目標を持って勉学に取り組める人をもっと増やしてほしいと思います。
	僕の周りの卒業生の評価は概ね高い気がしています。コミュニケーション・プレゼンテーション能力で苦勞している人が多い気がしています。 コミュニケーション・プレゼンテーションに特化した講義を増やすと良いと思います。
	今後も優秀な学生を育ててほしい。またテストの点数が高いだけでなく、リーダーシップを取れる学生や、奇抜なアイデアを出せる人、学校で学んだ事を実務に利用する事ができる人等、人間力の教育もお願いします。
	優秀な学生を世の中にたくさん送り出す事が、ひいてはOB・OGの為になると思います。宜しくお願いします。
	社会に出ても恥じない学生の教育及び、専門知識がある程度あって、コミュニケーションが取れる人材育成。
	社会人(一般企業)経験者の人を呼んで、社会人として必要な事、仕事に対する取り組み方等を教えてほしい。良い意味で有名になるような取り組みをしてほしい。
工学以外の授業を増やし、社会の中でさまざまな状況に対応できる人間を育成する。	
広報力の強化	もう少し道外にも情報を発信してほしい。
	いろいろな人、たくさんの人に室工大の事を知ってもらいたいと思います。国立大学としては、知名度は低いとされます。
	学生又は教員の研究成果が広く認知され、普及する事。
	大学祭にオープンキャンパスをぶつける等をして、研究室がより外に開かれる取り組みをしてみたいかでしょうか。
	大学の知名度、評判の向上を意識した取り組みを期待します。
	世間での認知度を高めてほしい。
	世界でも名の知られた大学になってほしい。
全国での知名度が低い為、国立大学と思われたい。もっと全国へ室工大の素晴らしいところを発信してほしい。	

問29. 室蘭工業大学に期待すること、ご意見・ご要望などがあれば、自由にお書きください。

就職支援改善

各学科で学んだ事を活かせるような就職サポートを充実させてほしい。

就職先によって、「〇〇大学だから有利」という事はないので、大学によらない就職指導等をしてほしい。

インターンシップの充実を強く要望します。

大学の仕事ではないかもしれないが、新卒で就職する時は卒業までに決めなければいけないという焦りの中、内定をいただいた企業に安易に就職した為、転職の手伝いをしていただけると、知り合いにも薦めたい大学になると感じます。又、現在仕事をしていて、同期や後輩は非常に打たれ弱く、学歴に関係なく、それまでの経験や体験がとても重要に感じた。叱られても、はい上がる人材を育ててほしいと思います。

①就活生への支援(叱咤激励含む)。

②社会に出て、技術者として自信を持てる人を育ててほしい(特に卒論・修論を通じて)。

他大学(旧帝大含)の学生は、職業訓練が不足している(特にパソコンを用いてのデータ処理、Excelの操作、マクロの組み方)。大学の教育プログラムとして、データの処理・統計処理、Excel操作についての内容を充実させるべきである。

偏差値の低下が気になり、学生の質の低下の印象もある為、対策を打っていただきたい。

卒業生に対して転職支援サービスを行う意図・メリットが分からない。それなら、在学生への支援をもっと充実させてはどうですか。

卒業生に対し、転職支援サービスを提供する活動をするぐらいなら、在学生に対する支援サービスを手厚くすべきではないでしょうか。

本学への期待

より室蘭工業大学のイメージが良くなるように、これからも期待しております。応援しております。

伸び伸びと学生生活を過ごし、さまざまな経験を得られる自由さを維持してほしい。

室蘭市については何かとネガティブなニュースが聞かれます。室蘭市を盛り上げる為にも、今後の活躍に期待します。

少子化の中大変とは思いますが、母校が存続し続ける事を願っています。ほどほどに優秀(本当に凄く優秀な方もいらっしゃいますが)で、素直なところが室工大生の良いところです。室蘭という田舎だからこそ、自分達で工夫して楽しみを見つけ、学び、遊んだ良い経験ができました。

卒業生が室工大出身である事を誇りに思える大学にし続けて下さい。私は室工大出身である事に誇りを強く持っています。私と同じ気持ちを持つ卒業生が今後も増えていく事を期待しています。

変な問題を起こさない事。

文部省に迎合する事なく、理念を持って学生を育てて下さい。

今はグローバルに仕事をする会社が多い。インターンシップの更なる充実と共に、いろいろな価値観、いろいろな仕事、いろいろな人生を学生に教えてあげられる大学になる事を期待する(ダイバーシティやワークライフバランス等)。但し、日本人としてのアイデンティティがどこにあるかは絶対必要な要素。

問29. 室蘭工業大学に期待すること、ご意見・ご要望などがあれば、自由にお書きください。	
教育改善	土木の積算のやり方、工事現場での機械や工具の名前等、実践で使う事を教えてほしい。
	卒業生に対する評価について。私の周りでは概ね良いですが、一部、能力が足りていない等のお話を聞く事もあり、ボトムアップされると良いかと思えます。 ※講義についていけない学生へのフォローの強化があると良いと思えます。
	授業の内容の充実をさせてほしい。
	学生が自信を持って社会に出られる基礎工学の勉強・研究をさせてほしい。 とても良い大学だと思います。これからの大学の発展、卒業生・在学生の活躍に期待しています。
	学問の面白さを学生に伝えられるような講義を期待します。その上で、学生が伸びるかどうかは本人次第と考えます。何となく単位を取って卒業するのではなく、自らが学ぶ強い意志を持った学生が多くなってほしいと思えます。
	試験があまい。
	学生の学力UPに努めてほしい。
総合	①旧機械システム工学科の教育レベルを下げないでほしい(組織変更後、学生の質が下がったと聞いた為)。 ②上記転職支援サービス(問28)開設を期待します。
	①ゼミを2回生・3回生から始めてほしい。 ②大学からサークルやバイトをもっと紹介してほしい。
	①学生課は明德寮と仲良くして下さい。 ②教職(数学)が取得できれば、もっと入学者が増えるかもです。
	①より女性が入りやすいような学校になれば良いと思えます。 ②室工大といえば、〇〇といったようなイメージがあると良いと思えます。
	①専門職・技術職が、これから少なくなると考えられるので(民官共に)、そういった職業に興味を持たせるような公報、学生の取得が必要である。 ②上記に関して、地方の中小建設は人手不足であり、そういったところへの斡旋も必要と考える。大企業へ多くの学生を入れる大学だけが有能な大学ではない。
語学力の強化	語学講座の充実(特に英語力)。
	語学力を向上させる講義を増やしてほしい。大学のイメージ向上に努めてほしい。もっと受験希望者が増える大学にしてほしい(現在は人気がない)。
	①もっと達成感を感じ、自発的に勉強したくなるような授業があると良い。 ②英語に力を入れるべきである。

問29. 室蘭工業大学に期待すること、ご意見・ご要望などがあれば、自由にお書きください。	
地域 社会・ 産 業との 連携	①民間企業支援の充実(北大や千歳科技大で行っているナノテク事業等)。 ②講習会や勉強会の実施(特に各種分析関連の装置の実地演習等)。
	地域との関わり、他大学とのつながり、民間企業との共同研究等、外部との接点が極端に少ないと感じた。閉鎖的である為、勉学に集中できるが、卒業後の進路を考えると、外部とつながりを形成できる機会を増やすべきだと思う。
究高 度の 推な 進研	室工でしかやっていない(特色のある研究室等があれば、生徒に薦めやすい)。
	他大学や企業との連携した質の高い研究が増えると、人材研究内容ともに、より良くなると思います。
そ の 他	資格や実務も大事だが、大学である以上は実務一辺倒ではいけないと思う。
	北大に行けず、気落ちした状態で室工大に来ている人も多く、モチベーションが上がらない学生が多い。そういう学生は同時にモラルも低い。その辺を大学側で上手くコントロールしてほしい。
	学校や学内の学部・学科を越えた交流を活発にしてほしい。
	学生指導や海外交流にもっと力を入れてほしい。
	自身の会社に卒業生がたくさん入ってほしい。

<参考>問 14. 室蘭工業大学出身で良かったと思う点、良くなかったと思う点(全文)

問14. 室蘭工業大学出身で良かったと思う点、良くなかったと思う点	
問14-1 良かった点	問14-2 良くなかった点
業会で室工大出身者が多いので、室工大出身という事で、親近感を持たれる。	室工大だけで仲良くなり、外へのコミュニケーション能力が低いと感じる。
①札幌から近く、便利な点(はまなすの廃止が気になります)。 ②研究に必要な設備が整っている点。 ③仕事先で室工大出身の人と会うと、会話ができる点(話題となる)。	①女子学生が少なく、女性とのコミュニケーションの取り方を習得しにくい点。 ②幅広い、一般的な考え方を習得しにくい点。
就職に有利だった点。	なし。
道内企業や自治体に同窓生が数多くいる事。 学校推薦。	
母校が一緒というだけで、先輩や後輩でも、学校では一緒となった時がないのに(年代が近いのに)、話しやすく、仲良くなり、頼れる、仲間意識が芽生える。	
特になし。	特になし。
北海道内においては、名前が知られているので、説明しやすいOBとの交流。	①道外では無名。 ②偏差値の低下によるブランド力低下。
広く浅くではあるが、実際の職場に多く行く事ができた。また多くの社会人とふれあう事ができ、自分の将来について考える事ができた。	①学校が暗い。目が悪かったので、怪我をしそうで怖かった。 ②学生活動が消極的。 ③図書館の本が少ない。開館時間が短い。
1人暮らしの同級生が多かった為、仲間意識が非常に高く、社会人となった今でも会うような友達が出来た点。	特になし。
①よさこい(サークル)に出会えた事。 ②研究室での1年間がとても良かった。良き先生に恵まれた事。	
室蘭出身の人が少なく、大学周りで1人暮らしの人が多く、勉強にしても遊びにしても、長時間いれるので、良い友情関係が築ける。	どうしようもないですが、立地条件がよろしくない(店が少ない。バスでしか移動できない)。
業界に多くの先輩方がいる事。 勉強しやすい環境。	単科なので女子が少ない→コミュニケーション力の低下。
道外出身だが、交友がある為、北海道へ行ける。	
①充実した教師陣による教育。 ②専門外の事も教師に聞けば丁寧に教えてくれる。	特になし。
大学で学んだ材料力学の知識が、仕事に役立っている点。	
サークル活動・バイト・同学科・研究室の仲間と知り合えた事。	英語教育の不足。
特になし。	特になし。
①社会に出てみると、室工大卒は有利である(就職等)。 ②良い友人に巡り会えた事で、知識や考え等のレベルを高め合う事ができた。	なし。
航空について学ぶ事ができた。素晴らしい仲間、教授と出会えた。	他の大学との交流が出来づらかった。
社会に出てみたら、思っていた以上に優秀な先輩がたくさん活躍していて、会社以外で知り合った人からも声をかけてもらえた。	ない。
①専門的な知識を身に付ける事ができた事。 ②卒業研究が充実していたところ。	単位取得の為に、あまり必要のない科目を勉強しなければならなかった事。
歴史が長く、社会においても、社内・社外に数多くの先輩が活躍している。	知名度が低い。
①国立大学で学費が低く抑えられた点。 ②北海道に住めた点。	東京での知名度が低い点。

問14. 室蘭工業大学出身で良かったと思う点、良くなかったと思う点	
問14-1 良かった点	問14-2 良くなかった点
職場に先輩が多くいる事。	
地方国公立の良さを感じる事ができた(特に1年次のオリエンテーションはよく覚えている)。	
なし。	知名度が低い。
図書館が充実していた。	一部科目で、単位取得が困難な科目があった事。
会社に工大出身の先輩が多い。	
①勉強・研究・就職活動に専念しやすい環境であった事。 ②光ファイバー等のインターネット環境が整備されていた事。 ③空き教室を自習に使用させてくれた事。	①札幌・本州への交通に不便。 ②就職に関する情報等が得にくい。
特になし。	特になし。
就職先で技術的部分が多少活かせる。	技術的以外の仕事が多く、あまり学んだ事が活かさない。
就職先での先輩・後輩・同期に室工大OB・OGが多数いる。	特にありません。
キャンパス、学生数の規模が小さい事もあり、友人を作りやすい。	交通の便が悪い。学生のモチベーションが低い。
周りからの評価が非常に高い。北海道の企業に就職したが、誰もが室蘭工業大学を知っている。理系のエキスパートだと思っていただけ。信用される。	
室工大出身と言うだけで、周りの人から凄いとされる。	
仕事関連で室工大卒の人と会う事があるが、共通した話題で話ができるので、打ち解けるきっかけになっている。	特になし。
就職がとてもスムーズだった。	思い描いていたキャンパスライフではなかった。
卒業後の就職先に出身者が多く、話が盛り上がる事が良かったです。	全国的にはあまり知名度が低い事です。
就職で苦労しなかった。	
北海道の大学であるだけで、他人との会話が盛り上がる。北海道に友達ができただ事。	特になし。
カリキュラム変更に伴い、次年度に開催されない講義に対する所謂、救済措置があった事(夏期休暇中の集中講義等)。	特になし。
なし。	なし。
道内では知名度があり、出身校の説明が楽だった。	
大学時代の友人とは10年経った今でも付き合いが続いている事。	
北海道を離れた今でも、北海道との関わりを持っている事。	知名度が低い。
研究室の教授が、専門分野において著名であった。	認知度が低い(大学の)。
就職活動がスムーズに進められた点。	特になし。
他の国立工業大学の上司や同僚と関わりやすい。	
	田舎。
一応、国立大学というネームバリュー。	
特になし。	①分かりづらい。 ②他の大学はオリジナルテキストがあり、生徒に分かるように努力している。 ③教授に分からせようという誠意が感じられなかった。
国公立大学である点。	①他大学との交流が少なかった。 ②本州での認知度の低さ。 ③英語力が身に付きにくい(英語の授業が少ない)。 ④海外留学に対して、積極的に学生にPRしていない。
身近に出身者が多い。	特になし。
北海道に住んでいたというステータス。	単位システムの複雑さ。よく分からない学問の「社会で絶対役に立つ」という押し(実際に使う機会はなかった)。

問14. 室蘭工業大学出身で良かったと思う点、良くなかったと思う点	
問14-1 良かった点	問14-2 良くなかった点
道内の就職に有利。	特になし。
①海外留学が経験できた事。 ②交換留学生の選抜のハードルが、それほど高くなかった事。	国立大学ではあるものの、道外での知名度が低く、就職に有利とは考えにくい点。
①多くの友人に恵まれた事。 ②同期生同士の絆が今でも強い事。 ③専門科目の基礎知識が、現在の業務(製造業の技術・開発職)において、非常に役立っている事。	語学・一般教養の授業を積極的に受けなかった事。特に英語の授業がつまらなくて、興味がわからず、社会に出てからの英語・他言語(ドイツ語・中国語)の重要性を意識しないまま勉強せず卒業してしまった為、今苦労している。社会に出てからの要素として、語学・一般教養も大切である事。今の学生達にもっと伝えてほしい。
周りの環境。	就職活動が不便。
親元を離れ、全て自分自身の責任で生活した事。1人暮らしの仲間が多く、密な関係を築けた事。	熱心な教授が少ない。
化学・生物学について広い知識が身に付けられた点。	①他大学よりも学ぶ内容が浅いと感じる事がある。 ②ゼミの先生の研究に対する意欲がなかった点。
大学生活で得た経験や仲間。	大学での拘束された時間。
①授業料が安かったところ。 ②実家から距離があった為、1人暮らしができ、いろいろ経験できたところ。	①札幌が遠いところ。 ②北大生と比較してしまうところ。 ③道外に行くと、知名度が低いところ。
実務経験を多くつめた事。	特にありません。
特になし。	勉学に対するモチベーションの維持が難しい。刺激がなかった。友達との思い出はあるが、大学での思い出がない。
国立大学。	
工業大学なので、就職してから必要な力を身に付ける事ができた。	大学名があまり有名ではない気がする。
①国公立であった点。 ②専門的な事を学べた点。 ③海外研修に参加できた点。	街の中心部までが遠い点。
技術士取得に役立ったところ。	
良い友人ができた。	特になし。
①各学科の先生方の個性・真剣さ。 ②体育館が充実していた。 ③周りの飲み屋さんやお店との交流。	単科大学の為、もっとカリキュラムを選べると思っていた。残念だった。
道内で勤務する者として、各所に先輩後輩がいらっしやり、引き立てていただく事がある点。	特になし。
①学部4年生・大学院2年間、計3年間の間のゼミ-研究室が非常に良かったです。研究室の指導教官である先生が、研究者として、人として、非常に優秀で、勉強以外の事でも勉強になり、人間として成長できたと感じています。 ②OB・OGのつながりが強い。	特に感じた事がないです。
卒業生に優秀な人が多い。	知名度が低い。 ①自分の勉強姿勢にも問題があると思うが、授業でいったい、この数式なり、現象が、実際の社会でどう役立っているのか分かりづらかった点。 ②社会ではじめて、この為にやっていたと分かり、学生時代にもっと理解しておけばと後悔した。授業でこういう事に使おうとか、教えてもらえたら良かったと思う。
①良い先生・同級生に恵まれた点。 ②1人暮らしをして、親のありがたみを感じた点。 ③同窓という事で、多くの先輩達が社会にいる点。	
人派が広がり、多くの人と交流を持つ事ができた。	
就職先に工大出身者が多く、業務上のつながりに良い影響がある。	特になし。
「室蘭工業大学出身」という事で、今まで得た良し悪しを感じた事はありません。又個人的にも、大学がそういったブランディングを進める必要はないと思っています。	
遊ぶ場所が少ないので、勉学・研究に集中できる。	
就職しやすい。	学業外が充実しなかった。

問14. 室蘭工業大学出身で良かったと思う点、良くなかったと思う点	
問14-1 良かった点	問14-2 良くなかった点
①専門以外の科目を自分で学べる所。 ②教授が親身になって相談にのってくれる。 ③留学生が多く、日本人以外の友人ができる(自分からそういう環境にいけば)。 ④スポーツ科目の選択制。 ⑤Cremaで溶接やマシニングセンタの操作を教えてもらった事。	①学生課スタッフの対応。 ②単位計算の複雑さ。 ③男子寮が遠い。 ④研究を自前のPCでやらされた事。 ⑤成人式を考慮してない授業日程。
会社の先輩がいる事。 国立大学という事で、学費が抑えられた事。 無事就職できた事。	大学の知名度が低く、分かってもらえない。
①大卒である事。 ②学んだ事を活かす事はできる。 学業に集中できる環境で集中して学んだ事は今も役立っている。	今、目指している職業には、学んだ事を活かさきれない事。 他校との関わりをもっと増やすと良いと思う。少し価値観が偏ってしまう気がします。
会社に室蘭工大出身者が多く、相談や話ができる。卒業した後も先生や友人達とつながりがあり、業務的な事でも助けを得る事ができた。	あまり知られていない。あまりない。
国立大学出身という事で、優秀だと思われる。 北海道内では評価されている。	特になし。 特になし。
①物事に真面目に取り組む姿勢が身に付いた。 ②一生大切にしたい仲間ができた。	都会で学生生活を送った方が、もっといろいろな経験ができたように思う(他大学生との交流、サービス業ではないアルバイト、国際的なボランティア等)。
①自由な点。 ②楽。	①簡単に単位が取れる。 ②カリキュラム。 ③教え方。
北海道の友人ができた事。 男子が多い。 一通りの技術的な知識が身に付いた事。 国立大学であった事。	本州圏の就職が不利な事。 女子が少ない。 語学力を伸ばすカリキュラムがほとんどなかった事。
社内に数名のOBがいる。 教養以外に私生活で工学に関わる趣味等が多く、幅広いトラブルに対応する知識や経験を得られた。	女学生が少なかった。 研究室によって、学生の質がかなり異なり、評判にばらつきがある事。
大学・大学院の学習を通じて、多くの教養が身に付き、エンジニア生活に非常に役立っております。	世界は急速にグローバル化が進み、英語や異文化をわきましなければなりません。社会に出て、最初の大きな壁は、海外エンジニアとのディスカッションです。世界に目を向けた教育が必要だと思います。
幅広い知識が得られるカリキュラム。 就職先に卒業生が多数いる点。 国公立である点。	特になし。 就職に不利な点。
①実務に役立つ内容(コンクリートの打設、測量等)を学ぶ事ができた。 ②(北大の寮と比較して)学生同士の結びつきの強い明德寮で生活できた。 研究室の教育内容は非常に良かった。 ものづくりに関する知識取得が出来た事は良かったと思う。	田舎である。 高度な研究設備がある環境で、研究活動ができれば良かったと思う。
現在勤めている会社に、室工大出身の人が多く、気さくに話しかけてきてくれる。	特にありません。
①卒業生が幅広い分野で活躍している。 ②今の自分を育ててくれた。 ③室蘭工大でしか学べない事を学べた。	地方大学なので、関東ではあまり知られていない。
藤木先生に出会えた事。 良い仲間と出会えた。 工学に関する深い専門知識が得られた点。 特になし。	何も役立っていない科目があった事(受講する目的、必要性が分からない)。 英語が高校時代よりできなくなった。 語学力が向上できるような機会がほとんどない点。 英語への力の入れ方が弱い。

問14. 室蘭工業大学出身で良かったと思う点、良くなかったと思う点	
問14-1 良かった点	問14-2 良くなかった点
①OBが多い。 ②エネルギー管理士等の資格取得を促してくれ、実際に取得した事で、実務でも有利となっている。 さまざまな企業にOB・OGがいる為、就職に有利。	全国的に無名。学会の全国大会への出席者少。 特になし。
①機械工学について、全般的に学べた事。 ②専門的な研究が、社会の業務に活かされた事。	
なし。	なし。
現在、化学系の工場の管理を担当しておりますので、化学光学、有機、無機と幅広く学べた事は良いところだと思っております。	
特になし。	特になし。
今の会社で室工大出身の先輩とローカルトークや分からない事を教えてもらえる。	語学力が少ない為、日々報告書や英訳する際に時間がかかる。
就職先の会社に、室蘭工業大学卒の先輩がいて、いろいろとお世話になった事。	
社会に出る際、又は出てからの利益・不利益はないが、大学の立地上、学生の大半が大学周辺に集まり、市街地に出にくい立地であるような閉鎖的な地域である為、先輩・同期・後輩と密な交流ができ、充実した大学生活だった。	閉鎖的な地域に、大学とは関係ない外部との交流が少なかった。
サークルで先輩・後輩が数多くできた。	室蘭と言っても、場所を知る人が少ない。
①就職先にOBが多くいる点。 ②国立である点。	
①勉学に集中できる環境だった事。 ②就職した会社に先輩が多くいた事で、仕事がしやすかった事。	
就職先で室工大の集まりがある。 学習を行いやすい環境であった。長い歴史があるので、多くの企業からの推薦があり、さまざまな企業を見る事ができた事。	リクレーター制度がない。ない企業が多い。立地が悪く、全国や海外に対する移動がしにくい。その為、全国の企業への就活が行いにくい。
会社の後輩・上司に、同じ大学出身の方がいる事。	いろいろな人と交流する機会があまりなかった事。
北海道という良い環境の中で、大学生活を送れた点。	授業や使用する教科書により、理解度が変わる点。教科書はもっと分かりやすいものを使用してほしい科目があった。
勉学に集中できた。	特になし。
特になし。	特になし。
大学院に進学すると、大手企業の推薦が受けられる点。 ゼミでは自由にやらせてもらった。おかげで、自立性を養う事ができた。	特にないです。 ロボットの勉強ができなかった。
	①就職に不利。 ②道内でしか名前が通っていない。 ③周囲の学業に対する向上欲が低い。 ④企業の情報が全く入ってこない。 ⑤近くに他大学がない為、交流範囲が狭い。
ない。	ない。
ほとんどの学生が大学周辺に住んでおり、深い付き合いができた。その人間関係が卒業後も続いている。	札幌や東京の大学生と比較して、地理的や学内の雰囲気狭い視野になっていると思う。
国立大学で学費が安い。何度か授業料も免除してもらえた。	もっと高度な教育・研究がしたかった。英語の授業のレベルが低すぎる。
出身者が多いので、つながりができる。	
大学寮での共同生活。	
①そこまで大きな大学ではなかったので、友人との深い絆をつくる事ができ、現在でも関係が継続している点。 ②オリジナルカリキュラム「ヒグマの講義」や「マラソン」が今思うと、とても勉強になった。	大学の周りにあまり何もなかった為、生活を充実させる情報に乏しかった。
特になし。	特になし。

問14. 室蘭工業大学出身で良かったと思う点、良くなかったと思う点	
問14-1 良かった点	問14-2 良くなかった点
専門知識を広く深く身に付けられた事は、会社に入ってからアドバンテージとなった(機械設計・製図・特許・解析等)。	プレゼンテーションに関して学ぶ機会が少なかった。在学中の事ではないが、最近学生の学力レベルが低いように感じられる。他校はもっと学生のレベルが高い。
幅広い友人ができた。夜間主に通っていたので、昼と夜の学業・仕事が両立できた事。	
自身が所属した研究室に出会えた事。	①“当時は”研究室によって就職先(規模?)にはばらつきがあった。 ②“当時は”就職活動支援に十分力を注いでいたとは言えないと思いました。
JABEE認定校である事。	偏差値が低い事。

室蘭工業大学
「平成 27 年度 卒業生アンケート」
集計結果報告書
平成 28 年 3 月
編著：一般社団法人日本能率協会
